

# webMethods とインテリジェントビジネス 運営製品のアップグレード

Version 9.6

April 2014

このマニュアルは、webMethods Product Suite Version 9.6 およびそれ以降のリリースに適用されます。

このマニュアルに含まれる仕様は、変更されることがあります。変更内容については、それ以降のリリースノート、または次のエディションで報告されます。

Copyright © 2011-2014 Software AG, Darmstadt, Germany and/or Software AG USA, Inc., Reston, VA, United States of America, and/or their licensors.

Software AG およびすべての Software AG 製品の名前は、Software AG、Software AG USA, Inc.、またはその子会社やサイセンサーの商標または登録商標です。このマニュアルに記載されたその他の企業名および製品名は、それぞれの所有者の商標です。

Software AG とその子会社が所有する商標および特許に関する詳細情報は <http://documentation.softwareag.com/legal/> にあります。

このソフトウェアを使用する際には、Software AG のライセンス条件に準拠する必要があります。これらの条件は、<http://documentation.softwareag.com/legal/> およびライセンスされた製品のルートインストールディレクトリにある製品マニュアルに記載されています。

ドキュメント ID: WEBM-UPG-96-20140415J

---

# 目次

このマニュアルについて . . . . .	7
表記規則 . . . . .	7
マニュアルのインストール . . . . .	7
オンライン情報 . . . . .	7
1. アップグレードの準備 . . . . .	9
アップグレードの概要 . . . . .	10
リリースの番号付け . . . . .	10
この章で使用する用語 . . . . .	10
アップグレードの実行に必要なマニュアル . . . . .	10
要件および推奨事項 . . . . .	11
このマニュアルで扱っていないアップグレード . . . . .	11
2. 新しいリリースへの製品のアップグレード . . . . .	13
概要 . . . . .	14
9.6 製品をインストールする前に . . . . .	14
CentraSite をインストールする前に . . . . .	14
webMethods Broker をインストールする前に . . . . .	14
Integration Server をインストールする前に . . . . .	14
My webMethods Server をインストールする前に . . . . .	15
9.6 製品のインストール . . . . .	15
アップグレードのための古い環境の準備 . . . . .	16
データベースの準備 . . . . .	16
修正の適用 . . . . .	17
CentraSite の準備 . . . . .	17
Designer の準備 . . . . .	17
Integration Server 定義のエクスポート . . . . .	17
CloudStreams のサーバ定義とプロジェクトのエクスポート . . . . .	17
イベントバスコンソール設定のエクスポート . . . . .	17
設定のエクスポート . . . . .	17
Integration Server の準備 . . . . .	18
OneData の準備 . . . . .	19
Optimize の準備 . . . . .	19
古い製品のシャットダウン . . . . .	19
データベースコンポーネントの移行 . . . . .	20
RDBMS のバックアップ . . . . .	20
RDBMS のアップグレード . . . . .	20
データベースコンポーネントに接続されている製品のシャットダウン . . . . .	20
8.2 または 9.0 からのアップグレード: Trading Networks データベースコンポーネントを 移行する前に . . . . .	21
その他のデータベースコンポーネントの移行に関する特別な考慮事項 . . . . .	21
データベースコンポーネント名 . . . . .	21

データベースコンポーネントの移行 .....	22
サイドバイサイドアップグレードの完了 .....	22
移行ユーティリティ .....	22
圧縮ファイルを古いインストールとして使用する .....	23
3. 製品スイートインフラストラクチャアップグレードの完了 .....	25
概要 .....	26
8.2 からのアップグレード: インフラストラクチャのアップグレードの完了 .....	26
インフラストラクチャ移行ユーティリティの実行 .....	26
設定とカスタマイズの移行 .....	27
9.0 または 9.5 からのアップグレード: インフラストラクチャアップグレードの完了 ...	28
ポート設定の移行 .....	28
その他の設定とカスタマイズの移行 .....	28
4. Messaging のアップグレードの完了 .....	31
webMethods Broker のアップグレードの完了 .....	32
下位互換性 .....	32
8.2 からのアップグレード: Broker アセットの XML 形式から ADL 形式への移行 ...	32
Broker Server 9.6 の作成および古い記憶領域の使用 .....	32
Universal Messaging のアップグレードの完了 .....	33
データを移行する前に .....	34
Universal Messaging 移行ユーティリティの実行 .....	34
カスタムの移行の実行 .....	34
インポートした設定を使用した移行 .....	34
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する) .....	35
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない) ...	35
Universal Messaging のアップグレードの完了 .....	35
5. My webMethods Server のアップグレードの完了 .....	37
My webMethods Server のアップグレードの完了 .....	38
データを移行する前に .....	38
My webMethods Server 移行ユーティリティの実行 .....	38
カスタムの移行の実行 .....	38
インポートした設定を使用した移行 .....	39
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する) .....	40
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない) .....	40
My webMethods Server の起動と再起動 .....	40
ホスト名の検証 .....	40
6. イベント駆動型アーキテクチャのアップグレードの完了 .....	41
イベント駆動型アーキテクチャのアップグレードの完了 .....	42
7. Integration Server およびホストされている製品のアップグレードの完了 .....	43
Integration Server およびホストされている製品のアップグレードの完了 .....	44
データを移行する前に .....	44
Integration Server 移行ユーティリティの実行 .....	44

カスタムの移行の実行 .....	45
インポートした設定を使用した移行 .....	46
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する) .....	46
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない) .....	46
移行ユーティリティで実行されるその他のアクション .....	47
Integration Server のアップグレードの完了 .....	47
Integration Server 起動ファイルのカスタマイズ .....	47
WSDL の更新 .....	47
Integration Server 機能のデータベースコンポーネントへの接続およびデータベースパ フォーマンスの向上 .....	48
EDA 設定の移行 .....	48
ホスト名の更新 .....	48
ActiveTransfer のアップグレードの完了 .....	49
CloudStreams のアップグレードの完了 .....	49
アダプタのアップグレードの完了 .....	50
webMethods JDBC Adapter .....	50
webMethods Package for Microsoft .NET .....	50
webMethods PeopleSoft EnterpriseOne Adapter .....	50
webMethods SAP Adapter .....	50
webMethods WebSphere MQ Adapter .....	51
eStandards モジュールのアップグレードの完了 .....	51
webMethods FIX Module .....	51
webMethods SWIFT FIN Module .....	51
webMethods SWIFTNet Module .....	51
<b>8. Terracotta のアップグレードの完了 .....</b>	<b>53</b>
Terracotta のアップグレードの完了 .....	54
<b>9. Designer、ビジネスプロセスのランタイムおよび Blaze のアップグレードの完了</b>	<b>55</b>
Designer データの移行 .....	56
データを移行する前に .....	56
ビジネスプロセスとビジネスルールプロジェクトの移行 .....	56
タスクアプリケーションプロジェクトの移行 .....	57
CloudStreams のサーバ定義とプロジェクトの移行 .....	57
Integration Server 定義の移行 .....	58
ビジネスプロセスのランタイムのアップグレードの完了 .....	58
ホスト名の更新 .....	58
Blaze ルールのアップグレードの完了 .....	59
<b>10. Command Central および Platform Manager のアップグレードの完了 .....</b>	<b>61</b>
Command Central のアップグレードの完了 .....	62
データを移行する前に .....	62
Command Central インフラストラクチャの移行 .....	62
Command Central 移行ユーティリティの実行 .....	63
カスタムの移行の実行 .....	63
インポートした設定を使用した移行 .....	63

インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する) . . . . .	64
インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない) . . .	64
Platform Manager のアップグレードの完了 . . . . .	64
11. CentraSite アップグレードの完了 . . . . .	65
CentraSite のアップグレードの完了 . . . . .	66
12. OneData のアップグレードの完了 . . . . .	67
OneData のアップグレードの完了 . . . . .	68
13. Optimize のアップグレードの完了 . . . . .	69
Terracotta Server Array の設定と起動 . . . . .	70
Infrastructure Data Collector インフラストラクチャの移行 . . . . .	70
Process Engine への接続の更新 . . . . .	70
Optimize Support パッケージへの接続の更新 . . . . .	70
Optimize 環境の展開 . . . . .	71
古い Optimize CCS 環境定義を再利用しない場合 . . . . .	71
古い Optimize CCS 環境定義を再利用する場合 . . . . .	71
Optimize 9.6 環境の展開 . . . . .	72
8.2 からのアップグレード: クラスタ化された Integration Server の監視 . . . . .	72
SNMP アセットに対して収集したデータの移行 . . . . .	72
新しい JMS プロバイダの使用 . . . . .	73
14. Asset Build Environment および Deployer のアップグレードの完了 . . . . .	75
Asset Build Environment のアップグレードの完了 . . . . .	76
Deployer のアップグレードの完了 . . . . .	76
Deployer データを移行する前に . . . . .	76
Integration Server 移行ユーティリティを使用してすべての Deployer データを移行する 77	
Deployer 移行機能を使用して選択された Deployer データを移行する . . . . .	77
古い Deployer と Deployer 9.6 を起動してグローバル (デフォルト) 設定を移行する 77	
接続情報 (サーバエイリアス) の移行 . . . . .	77
ターゲットグループの移行 . . . . .	77
展開プロジェクトの移行 . . . . .	78
15. 全製品の最終タスクの完了、およびトラブルシューティング . . . . .	79
全製品の最終的な変更の完了 . . . . .	80
トラブルシューティング . . . . .	80

## このマニュアルについて

このマニュアルでは、webMethods と 製品を 9.5、9.0、または 8.2 から 9.6 にアップグレードする方法について説明します。

## 表記規則

規則	説明
太字	画面上の要素を表します。
縮小フォント	folder.subfolder:service という規則を使用して webMethods Integration Server 上のサービスの保存場所を表します。
大文字	キーボードのキーを表します。同時に押す必要があるキーは、プラス記号 (+) で結んで表記されます。
斜体	独自の状況または環境に固有の値を指定する必要がある変数を表します。本文で最初に出現する新しい用語を表します。
モノスペースフォント	入力する必要があるテキストまたはシステムから表示されるメッセージを表します。
{ }	選択肢のセットを表します。ここから 1 つ選択する必要があります。中カッコの内側にある情報のみを入力します。{} 記号は入力しません。
	構文行で相互排他的な 2 つの選択肢を区切ります。いずれかの選択肢を入力します。  記号は入力しません。
[ ]	1 つ以上のオプションを表します。大カッコの内側にある情報のみを入力します。[] 記号は入力しません。
の動作	同じタイプの複数のオプションを入力できることを表します。情報のみを入力します。省略記号 (...) は入力しません。

## マニュアルのインストール

Software AG Installer を使用して、製品マニュアルをダウンロードできます。マニュアルは、メインインストールディレクトリ (デフォルトでは Software AG) 内のセントラルディレクトリ \_documentation にダウンロードされます。

## オンライン情報

Software AG 製品に関する追加情報は、以下の場所から入手できます。

目的	参照先
最新バージョンの製品マニュアルにアクセスする	Software AG マニュアルの Web サイト <a href="http://documentation.softwareag.com">http://documentation.softwareag.com</a>

目的	参照先
<p>製品リリースおよび問題解決に使用できるツールに関する情報を入手する</p> <p>次のことを行うには、<a href="#">Knowledge Center</a> を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 技術的な記事を読む</li><li>■ 修正およびサービスパック (9.0 SP1 以前) をダウンロードする</li><li>■ 重要なアラートを確認する</li></ul> <p>次のことを行うには、<a href="#">Products 領域</a>を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 製品をダウンロードする</li><li>■ 認定済みサンプルをダウンロードする</li><li>■ 製品の可用性に関する情報を取得する</li><li>■ 旧バージョンの製品マニュアルにアクセスする</li><li>■ 機能および拡張機能に関する要求をサブミットする</li></ul>	<p>Empower 製品のサポート Web サイト</p> <p><a href="https://empower.softwareag.com">https://empower.softwareag.com</a></p>
<ul style="list-style-type: none"><li>■ 他の記事、デモ、チュートリアルにアクセスする</li><li>■ Software AG テクノロジをさらに活用するために、Software AG の専門家によって承認された技術情報、有益なリソース、オンライン掲示板フォーラムを入手する</li><li>■ オンライン掲示板フォーラムを使用して、ベストプラクティスを交換したり、他の専門家とチャットしたりする</li><li>■ 製品マニュアル、コードのサンプル、記事、オンラインセミナー、チュートリアルに関する知識を広げる</li><li>■ オープンスタンダードや多くの Web テクノロジピックを取り扱う外部 Web サイトにリンクする</li><li>■ Software AG のテクノロジーを使用して、他の顧客が運用をどのように効率化しているかを確認する</li></ul>	<p>webMethods 用の Software AG 開発者コミュニティ</p> <p><a href="http://communities.softwareag.com/">http://communities.softwareag.com/</a></p>



# 1 アップグレードの準備

---

■ アップグレードの概要	10
■ リリースの番号付け	10
■ この章で使用する用語	10
■ アップグレードの実行に必要なマニュアル	10
■ 要件および推奨事項	11
■ このマニュアルで扱っていないアップグレード	11

# アップグレードの概要

---

このマニュアルでは、サイドバイサイド手順を使用して、webMethods 製品と 製品を 9.5、9.0、8.2 から 9.6 にアップグレードする方法について説明します。手順内のタスクは、特定リリースのみに適用される場合が明記されている場合を除き、すべてのリリースで必要です。

## リリースの番号付け

---

ほとんどの場合、製品は製品スイートの番号付けに従っています。製品のアップグレードは最新リリースからのみ可能です。たとえば、製品スイート 8.2 で製品の最新リリースが 8.2 SP2 である場合、その製品は 8.2 SP2 からのみアップグレードできます。

次のような例外があります。

- 製品スイート 9.6 では、Terracotta リリースは 3.7.6 です。Terracotta 3.7.6 を製品スイート 9.5、9.0、または 8.2 インストールの一部としてインストールした場合、アップグレードは必要ありません。製品スイート 9.5、9.0、または 8.2 インストールに 3.7.6 より前の Terracotta リリースが含まれている場合は、それらのリリースから 3.7.6 にアップグレードする必要があります。
- 8.2 からのアップグレード：製品スイート 8.2 では、OneData リリースは 8.4 でした。このリリースからアップグレードできます。

## この章で使用する用語

---

わかりやすくするために、このマニュアルでは次の用語が使用されています。

- ほとんどの製品で、アップグレード前の製品スイートリリースは 9.5、9.0 または 8.2 と表記しています。ただし、実際に 9.6 にアップグレードできるのは、9.5、9.0、または 8.2 の各製品の最新リリースからのみです。
- アップグレード後の製品スイートリリースを 9.6 と表記しています。しかし、正確には、このマニュアルで説明しているのは、各 9.6 製品の最新リリースへのアップグレード手順です。

## アップグレードの実行に必要なマニュアル

---

この手順を実行するには、下記のマニュアルが常に必要になります。

- Using the Software AG Installer (2014 年 4 月リリース)
- Installing webMethods Products 9.6
- Using the Software AG Update Manager

アップグレードする製品によっては、この手順を実行するために下記の 9.6 のマニュアルおよびその他のマニュアルが必要になることがあります。

- webMethods BPM Task Development Help
- Using Blaze Rules with BPM and CAF
- CentraSite のマニュアル
- webMethods Deployer User's Guide
- webMethods Integration Server Administrator's Guide、webMethods Service Development Help、webMethods Integration Server Clustering Guide
- Administering webMethods Optimize、Configuring BAM
- Terracotta のマニュアル

## 要件および推奨事項

- 製品のアップグレードとデータの移行は、このマニュアルで示された手順に従って行ってください。
- Software AG 実稼動環境のアップグレードを実施する前に、制御されたテスト環境でアップグレードを行い、システムが適切に動作するかどうかを検証することを強くお勧めします。
- Software AG は、同じハードウェアとオペレーティングシステムを持つマシン間で移行をテストします。また Integration Server は、異なるハードウェアまたは異なるオペレーティングシステムを持つマシン間で移行をテストします。ただし、その他の製品の場合、異なるハードウェアまたはオペレーティングシステムを持つマシン間の移行で (特に、一方のマシンが Windows で、もう一方が UNIX である場合)、予期しない結果になる可能性があります。

## このマニュアルで扱っていないアップグレード

- 8.2 よりも前のリリースからアップグレードする場合、最初に 8.2、9.0、または 9.5 のアップグレードマニュアルに従って 8.2、9.0、または 9.5 にアップグレードして、そのリリースから 9.6 にアップグレードする必要があります。
- 古いマシンとは異なるオペレーティングシステムまたは異なるハードウェアのマシンに webMethods Broker 9.6 をインストールする場合、あるいは webMethods Broker 8.2、9.0、または 9.6 を、SUSE Linux Enterprise Server または Red Hat Enterprise Linux を実行している IBM System z マシン上の 9.6 にアップグレードする場合は、新しい記憶領域を作成してから、webMethods Broker エクスポート / インポートユーティリティを使用して Broker Server 設定情報を古い記憶領域から新しい記憶領域に移行する必要があります。手順については、『Administering webMethods Broker 9.6』を参照してください。
- CentraSite 9.6 Registry Repository または Application Server Tier を古い CentraSite Registry Repository または Application Server Tier に上書きインストールする場合の手順については、CentraSite 9.6 のマニュアルを参照してください。
- MashZone または Process Performance Manager をアップグレードする場合は、9.6 製品マニュアルを参照してください。
- Mobile Designer をアップグレードする場合は、自動更新オプションを使用できます。手順については、Mobile Designer 9.6 のマニュアルを参照してください。
- Content Service Platform をアップグレードする場合は、Software AG Global Consulting Services にご連絡ください。
- Terracotta のアップグレード手順では、単一サーバ、またはミラーグループ (アクティブサーバとミラーサーバで構成される) を持つ Terracotta Server Array をアップグレードする方法について説明しません。その他の設定をアップグレードする場合は、Terracotta 3.7.6 のマニュアルを参照してください。



## 2 新しいリリースへの製品のアップグレード

---

■ 概要	14
■ 9.6 製品をインストールする前に	14
■ 9.6 製品のインストール	15
■ アップグレードのための古い環境の準備	16
■ 古い製品のシャットダウン	19
■ データベースコンポーネントの移行	20
■ サイドバイサイドアップグレードの完了	22

### 概要

---

この章では、サイドバイサイド手順を使用して、製品スイート 9.5、9.0、または 8.2 の製品を 9.6 にアップグレードする方法について説明します。一部の製品では、別のタスクを実行してアップグレードを完了する、またはデータを移行する必要があります。後続の章では、そのようなタスクについて手順を説明します。

### 9.6 製品をインストールする前に

---

ここでは、特定の製品をインストールする前に考慮事項について説明します。

#### CentraSite をインストールする前に

CentraSite Application Server Tier および CentraSite Registry Repository を異なるマシンにインストールするか、または同じディレクトリに異なるタイミングでインストールする場合は、まず Registry Repository をインストールする必要があります。

CentraSite 9.6 を古い CentraSite と同じマシンにインストールする場合は、これら両方の製品が異なるポートを使用する場合でも、IPC と共有メモリリソースが競合するため、両方を同時に実行することはできません。

#### webMethods Broker をインストールする前に

webMethods Broker について、以下の操作を行うことができます。

- webMethods Broker 9.6 を古い webMethods Broker と同じマシンにインストールします。
- webMethods Broker 9.6 を古いマシンと同じかそれ以降のオペレーティングシステム（たとえば Windows 7 に対して Windows 2008、Linux 5.5 に対して Linux 6.3 など）を実行し、同じハードウェア（たとえば両方とも AMD を搭載している、両方とも Intel を搭載している、など）を装備する新しいマシンにインストールします。

どちらの場合も、古い記憶領域を再利用します。

#### Integration Server をインストールする前に

Integration Server のクラスタをアップグレードする場合、Software AG では以下の手順に従うことをお勧めします。

- 1 9.6 Integration Server の一致するセットをインストールします。たとえば、IS1\_old、IS2\_old、および IS3\_old という 3 つの古い Integration Server でクラスタが構成されており、外部のロードバランサを使用してクライアントの要求を分散する場合、IS1\_new、IS2\_new、および IS3\_new をインストールします。
- 2 クラスタ内の各 Integration Server に対して、[19 ページの「OneData の準備」](#)の手順を実行します。
- 3 IS1\_old をシャットダウンします。
- 4 [43 ページの「Integration Server およびホストされている製品のアップグレードの完了」](#)の手順を使用して、IS1\_old データを IS1\_new に移行し、IS1\_new 起動ファイルをカスタマイズします。
- 5 IS2\_old および IS3\_old をシャットダウンします。
- 6 IS1\_new に対して、以下の手順を実行します。
  - a IS1\_new を起動します。
  - b IS1\_old が Terracotta ベースのクラスタリングソリューションを使用するように設定されていない場合は、Terracotta ベースのクラスタリングソリューションを使用するように IS1\_new を設定し

ます。IS1\_new がクライアントの要求を処理していることを確認します。手順については、『webMethods Integration Server Clustering Guide9.6』を参照してください。

**重要：** Coherence は、リリース 9.0 でサポートされなくなりました。

- c WSDL を更新し、機能をデータベースコンポーネントに接続し、IS\_new でセントラルユーザ管理を設定します (43 ページの「Integration Server およびホストされている製品のアップグレードの完了」を参照してください)。
- 7 手順 4 および 6 を IS2\_new に対して、その後 IS3\_new に対して繰り返します。

## My webMethods Server をインストールする前に

古いリリースで、環境変数 WM\_HOME を使用して、インストールのホストマシンのグローバルパスにデフォルトの My webMethods Server インストールを指定した可能性があります。古いリリースと同じマシンに新しいリリースをインストールする場合、この変数の存在により問題が発生することがあります。したがって、グローバルパスからこの環境変数を削除する必要があります。

My webMethods Server 9.6 のインストール後に、この環境変数を再定義しないでください。

## 9.6 製品のインストール

古いリリースと同じマシンにインストールする場合、古い製品が実行中であっても、通常は、古い製品によって使用されているポートを新しい製品に割り当てることができます。同じポートを割り当てると、新しいリリースを使い始める際に、アセットとクライアントでポート値を編集する必要があります。

『Using the Software AG Installer』(2014 年 4 月リリース) および 『Installing webMethods Products9.6』 の手順、および下記のガイドラインに従って新しい製品をインストールします。

- 1 インストールディレクトリには、新しい Software AG インストールディレクトリを指定します。
- 2 製品ツリーで、インストールする 9.6 製品を選択します。Universal Messaging をアップグレードする場合、[Universal Messaging] > [Migration Utilities] を選択したことを確認してください。また [Database Configuration] と [Update Manager] を選択します。

**メモ：** 製品スイート 8.2 では、Blaze Advisor が Blaze デザイン用ツールです。9.0 では、このデザイン用ツールは Designer への Blaze プラグインです。9.5 および 9.6 では、互換性の理由から、Blaze プラグインは Eclipse 3.6 をベースにした完全独立型のワークベンチとして提供され、Eclipse 4.3 をベースにした Designer 9.5 および 9.6 とは分離されます。

- 3 製品パネルについては、『Installing webMethods Products9.6』 の手順、および下記のガイドラインに従います。

製品	ガイドライン
ActiveTransfer Server	データベース接続を ActiveTransfer Server 9.6 で使用する ActiveTransfer データベースコンポーネントにポイントします。
webMethods Broker	Broker Server 設定を作成しないことを選択します。
Integration Server	データベース接続を Integration Server 9.6 で使用する ISInternal データベースコンポーネントにポイントします。

製品	ガイドライン
My webMethods Server	<p>My webMethods Server インスタンスを作成しないことを選択します。</p> <p><b>メモ：</b>この手順で古いサーバインスタンスを後で移行します。また My webMethods Server 9.6 で使用する My webMethodsServer データベースコンポーネントを移行して、この手順でそのデータベースコンポーネントを後でポイントします。</p>
OneData	<p>以前にメモに書きとめたポート、リポジトリ ID、リポジトリ名、データベースコンポーネント接続の値を入力します。OneData 9.6 で使用する OneData データベースコンポーネントをデータベース接続がポイントしていることを確認します。</p> <p><b>メモ：</b>ポート値を再利用すると、古い OneData の Web サービスクライアントは OneData 9.6 にアクセスするために URL を変更する必要がなくなります。</p>
Trading Networks	<p>データベース接続を Trading Networks 9.6 で使用する TradingNetworks データベースコンポーネントにポイントします。</p>
Universal Messaging	<p>古い Universal Messaging インストールにあるサーバインスタンスと同一の名前を入力して、そのサーバインスタンスの IP アドレスとポートにバインドします。データディレクトリを新しいインストール内の場所にポイントします (つまり、古いデータディレクトリをポイントしません)。</p> <p><b>メモ：</b>データディレクトリのデフォルトの場所を受け入れると、後で自動的に移行されます。異なる場所を使用する場合、移行を手動で実行する必要があります。</p>

- 4 Windows システムにインストールして、製品を Windows サービスとしてインストールした場合、サービスの開始はデフォルトで [自動] になります。このサービスを [手動] に設定します。UNIX システムにインストールして、デーモンを自動的に起動するスクリプトがある場合、このスクリプトを無効にします。

**重要：**この時点で、つまり、データベースコンポーネントまたはデータを移行する前に、9.6 製品を起動しないでください。このマニュアルで指示があるまで、9.6 製品を起動しないでください。起動すると、データベースコンポーネントが壊れる可能性があります。

## アップグレードのための古い環境の準備

### データベースの準備

一部の製品 (CentraSite、Monitor、Optimize、Trading Networks など) には、データを製品データベースコンポーネントからアーカイブまたは消去するための機能があります。先に製品データベースコンポーネントをアーカイブまたは消去しておくことで、製品データベースコンポーネントのバックアップや移行に必要な時間を減らすことができます。



## 修正の適用

Software AG Update Manager を使用して、古い CentraSite、古い Optimize、および古い Infrastructure Data Collector に最新の修正を適用します。手順については、『Using the Software AG Update Manager』を参照してください。

## CentraSite の準備

- 1 CentraSite Control の設定をデフォルトから変更した場合は、設定をメモに書きとめ、新しい CentraSite インストールで同様の変更を加えることができますようにします。
- 2 8.2 からのアップグレード : ApplinX オブジェクトタイプの内部構造を定義するメタモデルは、リリース 9.0 で変更され、古いメタモデルとの互換性はありません。CentraSite 9.6 では、古い ApplinX オブジェクトタイプに基づくオブジェクトタイプインスタンスの使用がサポートされません。CentraSite 9.6 では ApplinX オブジェクトタイプまたはインスタンスを古い製品リリースからインポートすることはできません。また、古いインスタンスを新しいメタモデルに移行する手順はありません。CentraSite 9.6 で古い製品リリースからの ApplinX オブジェクトタイプインスタンスを使用する場合は、CentraSite 9.6 のインストール後にインスタンスを手動で再作成する必要があります。すべての ApplinX オブジェクトタイプインスタンスの定義をメモに書きとめます。

## Designer の準備

### Integration Server 定義のエクスポート

- 1 古い Designer で、[Window] > [Preferences] を選択します。[Preferences] ダイアログボックスにある左側のナビゲーションバーで、[Software AG] > [Integration Server] を選択します。
- 2 [エクスポート] をクリックして、ダイアログボックスを完了します。Designer により、拡張子 .properties でファイルが保存されます。

### CloudStreams のサーバ定義とプロジェクトのエクスポート

- 1 古い Designer で、[CloudStreams 開発] パースペクティブに移動します。
- 2 CloudStreams のサーバ定義をエクスポートするには、[Window] > [Preferences] に移動します。[Preferences] ダイアログボックスにある左側のナビゲーションバーで、[Software AG] > [CloudStreams サーバ] を選択します。[エクスポート] をクリックして、ダイアログボックスを完了します。Designer により、拡張子 .properties でファイルが保存されます。
- 3 CloudStreams Governance リストでエクスポートする CloudStreams Governance プロジェクトを右クリックし、[Export] をクリックして、ダイアログボックスを完了します。
- 4 前の手順を繰り返して CloudStreams プロバイダプロジェクトをエクスポートします。

### イベントバスコンソール設定のエクスポート

- 1 古い Designer で、[File] > [Export] ウィザードに移動します。[Select] パネルで、[Run/Debug] > [Launch Configurations] を選択して、[Next] をクリックします。
- 2 ツリーで [Event Bus Console] 設定を選択します。[Location] フィールドで、エクスポート先のディレクトリを指定します。Designer により、拡張子 .launch で各ファイルが保存されます。

### 設定のエクスポート

設定を Designer 9.6 に移行する場合は、古い Designer からエクスポートして Designer 9.6 にインポートします。設定をエクスポートするには、以下の手順に従います。

- 1 古い Designer で、[File] > [Export] ウィザードに移動します。[Select] パネルで、[General] > [Preferences] を選択して、[Next] をクリックします。
- 2 [To preference file] フィールドに、設定のエクスポート先とするファイルの名前を指定します。Designer により、拡張子 .epf でファイルが保存されます。

### Integration Server の準備

- 1 webMethods Broker を使用しており、Broker Monitor 9.6 が実行中になっている場合、これをシャットダウンします。次に古い Broker Monitor を起動してから、古い Broker Server を起動します。
- 2 古い Integration Server を起動します。
- 3 すべてのトリガーのドキュメント抽出を一時停止して、以下の手順に従って、保証付きの全メッセージの処理が完了したことを確認します。
  - a Integration Server Administrator を開き、古い Integration Server をポイントします。
  - b [パッケージ] > [管理] に移動します。[ロックされている要素の表示]、[要素のアンロック] の順にクリックし、トリガーのすべての要素を選択して、[選択した要素をアンロック] をクリックします。
  - c 8.2 または 9.0 からのアップグレード: [設定] > [メッセージング] > [Broker/ ローカルトリガーの管理] ページに移動します。[個別トリガーコントロール] 領域で、[ドキュメント抽出] にある [アクティブ] 列の [一括編集] をクリックし、[抽出の状態] を [一時停止中] に設定します。すべてのトリガーの [パーシストされたキューカウント] フィールドに 0 が表示されるまで、ページを更新します。
  - d 9.5 からのアップグレード: [設定] > [メッセージング] > [webMethods トリガーの管理] ページに移動します。[個別トリガーコントロール] 領域で、[ドキュメント抽出] にある [アクティブ] 列の [一括編集] をクリックし、[抽出の状態] を [一時停止中] に設定します。すべてのトリガーの [現在のキューカウント] フィールドに 0 が表示されるまで、ページを更新します。
- 4 webMethods Broker を使用している場合、以下の手順に従って、クライアントサイドキュー内の全送信 Broker メッセージが送信されたことを確認します。
  - a Integration Server が Broker に接続されていることを確認します。
  - b [設定] > [リソース] > [ストアの設定] ページに移動します。[送信ドキュメントストア] 領域の [送信ストアにある現在のドキュメント] フィールドに 0 が表示されていることを確認します。
- 5 以下の手順に従って、JMS クライアントサイドキュー内の全送信メッセージが送信されたことを確認します。
  - a Integration Server が JMS プロバイダに接続されていることを確認します。
  - b [設定] > [メッセージング] > [JMS 設定] ページに移動します。[JMS 接続エイリアスの定義] 領域で、すべての JMS 接続エイリアスに対して、[CSQ カウント] フィールドが 0 になっていることを確認します。
- 6 ビジネスプロセスをアップグレードしようとしていて、揮発性の移行ドキュメントを使用するビジネスプロセスモデルがあり、これらのモデルのプロセスインスタンスが [開始] の状態になっている場合、アップグレード前に、この [開始] 状態のプロセスのインスタンスを完了するか、一時停止にします。

---

**重要:** アップグレード前に [開始] 状態のプロセスインスタンスを完了または一時停止できないと、データが失われることがあります。

---

**メモ:** 保証付きの移行ドキュメントを使用しているモデルの場合は、そのモデルのプロセスインスタンスが [開始] 状態になっていても、アップグレードの前に完了または一時停止を行う必要はありません。

---

## OneData の準備

- 1 古い OneData で、[Home] > [Administer] > [Job Center] ページに移動します。[Filter] ページで、各ジョブタイプに対して [Active] または [Pending Active] でフィルタします。ジョブがこれらのいずれかの状態である場合は、ジョブを終了するか、完了するまで待機します。
- 2 ファイルシステムで、old\_Software AG\_directory\profiles\ODE\configuration\tomcat\conf ディレクトリに移動し、context.xml ファイルを開きます。スキーマユーザ名の先頭にある接続プリフィックスをメモに書きとめます (たとえば、メタデータスキーマユーザ名 dev2\_md の接続プリフィックスは dev2 です)。また、メタデータ、作業領域、リリース領域のデータベーススキーマのデータベース接続パラメータもメモに書きとめます。
- 3 以下の手順に従って、ポート番号を書きとめます。
  - a 8.4 からのアップグレード : old\_Software AG\_directory\profiles\ODE\configuration\tomcat\conf ディレクトリに移動し、server.xml ファイルを開きます。ポート属性の HTTP および HTTPS ポート番号をそれぞれ Default CTP HTTP Connector および Default CTP HTTPS Connector ファイルから書きとめます。
  - b 9.0 または 9.5 からのアップグレード : old\_Software AG\_directory\profiles\ODE\configuration\com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリに移動します。com.softwareag.catalina.connector.http.pid-port.properties および com.softwareag.catalina.connector.https.pid-port.properties ファイルを開き、ポート番号を書きとめます。

## Optimize の準備

- 1 CCS (Central Configuration System) 環境定義を再利用したい場合は、環境を XML ファイルにエクスポートします。My webMethods で、[管理] > [システム全体] > [環境] > [環境の定義] ページに移動します。環境の隣にあるチェックボックスを選択し、[環境のエクスポート] をクリックし、エクスポートする環境のファイル名と場所を指定します。
- 2 8.2 からのアップグレード : Oracle Coherence を使用してクラスタ化された Integration Server がある場合、代わりに Terracotta ベースのクラスタリングソリューションを使用するように、このマニュアルの後半でこれらを再設定することになります。次のように、この変更の準備を整えます。
  - a クラスタ化された Integration Server を監視している場合は、これらの監視を停止します。
  - b クラスタ化された Integration Server に対して KPI がある場合、[アプリケーション] > [管理] > [分析] > [インフラストラクチャコンポーネント] > [監視中のコンポーネント] ページに移動します。[監視中のコンポーネント] リストで、[IS Cluster] をクリックします。[選択された KPI] ボックスにリストされている KPI をメモに書きとめ、KPI を削除して [保存] をクリックします。

**メモ :** クラスタ化された Integration Server から収集した KPI データは、Optimize 9.6 では使用できません。
- 3 新しいインストールで Analytic Engine をクラスタ化する場合は、Terracotta Server Array が必要です。計画に関する情報については、『Getting Started with the webMethods Product Suite and Terracotta 9.6』、『Configuring BAM 9.6』 および Terracotta 9.6 のマニュアルを参照してください。

## 古い製品のシャットダウン

古い製品をシャットダウンします。UNIX システムの場合は、古いリリース用の製品マニュアルの手順を使用します。Windows システムの場合 :

製品の実行方法	シャットダウンを実行する場所
[ サービス ]	Windows の [ サービス ] ウィンドウ。サービスは Software AG product release として表示されます。
アプリケーション	Windows の [ スタート ] メニュー。アプリケーションは、[ Software AG ] > [ サーバの停止 ] > product として表示されます。

My webMethods Server のクラスタをアップグレードしている場合、すべてのクラスタノードをシャットダウンします。クラスタは、同じ MywebMethodsServer データベースコンポーネントをポイントする複数のノードとして定義されます。ノードは、My webMethods Server インストール、または My webMethods Server インストール内のサーバインスタンスにすることができます。

CentraSite をアップグレードしており、新旧の CentraSite が同じマシン上にある場合：

- 8.2 からのアップグレード : CentraSite Apache および Tomcat Server サービスを停止して、すべての古い Application Server Tier をシャットダウンします。
- 9.0 または 9.5 からのアップグレード : Software AG Runtime サービスを停止して、すべての古い Application Server Tier をシャットダウンします。
- Registry Repository サービスを停止して、古い Registry Repository をシャットダウンします。

EntireX をアップグレードしている場合は、すべての Broker、RPC Server、EntireX ライブラリを使用する顧客アプリケーションもシャットダウンします。古いリリース用の製品マニュアルの手順を参照してください。

## データベースコンポーネントの移行

### RDBMS のバックアップ

お使いの RDBMS のベンダーによる手順を使用して、使用しているデータベースコンポーネントが含まれる RDBMS をバックアップします。

My webMethods Server をアップグレードする場合は、MywebMethodsServer データベースコンポーネントをバックアップするときに同時に、My webMethods Server インストールディレクトリをバックアップします。問題が発生した場合は、このバックアップのデータを使用してデータベースを復元する必要があります。

### RDBMS のアップグレード

使用している RDBMS を『webMethods System Requirements9.6』と照らし合わせて確認します。使用している RDBMS のバージョンが 9.6 製品でサポートされていない場合、この章の手順を続行する前に、サポートされている RDBMS バージョンにアップグレードする必要があります。

### データベースコンポーネントに接続されている製品のシャットダウン

データベースコンポーネントに接続するすべての古い Integration Server、My webMethods Server、OneData および Optimize インスタンスをシャットダウンしていない場合は、シャットダウンします。

## 8.2 または 9.0 からのアップグレード : Trading Networks データベースコンポーネントを移行する前に

- 1 データエディタを使用して、TradingNetworksArchive データベースコンポーネントの ARCHIVE\_WORKTABLE テーブルから、すべてのデータを削除します。
- 2 Trading Networks データベースコンポーネントに対してカスタムインデックスを作成した場合は、これらのカスタムインデックスが、次の手順で Trading Networks 移行スクリプトを実行するときに作成されるインデックスと競合するかどうかを確認します。競合する場合は、カスタムインデックスを破棄してください。移行スクリプトは、9.6\_Software AG\_directory\common\db\scripts\RDBMS\tradingnetworks\migrate ディレクトリ内の以下のディレクトリにあります。
  - 8.2 からのアップグレード : \39\_40 および 40\_to\_45 ディレクトリの下。
  - 9.0 からのアップグレード : \40\_to\_45 ディレクトリの下。

### その他のデータベースコンポーネントの移行に関する特別な考慮事項

ビジネスプロセスを使用している場合は、処理中、完了、失敗などのビジネスプロセスインスタンスに関する情報が保存されます。この保存された情報は、ビジネスプロセスのランタイムデータと呼ばれます。製品スイート 9.6 で、古いインストールからの処理中のプロセスインスタンスの実行を完了しない場合、または完了または失敗したプロセスインスタンスを再サブミットしない場合は、ビジネスプロセスのランタイムデータを移行しないでください (以下の表を参照してください)。

Optimize で DB2 RDBMS を使用している場合、データベースコンポーネント移行コマンドで指定する URL には特別な考慮事項があります。以下の点に従う必要があります。

- URL のスキーマ名はすべて大文字で指定します。
- オプション CreateDefaultPackage=true, ReplacePackage=true および DynamicSections=3000 を指定します。この設定は、同じスキーマまたはデータベースにあるすべてのデータベースコンポーネントに影響します。

### データベースコンポーネント名

移行コマンドで使用するデータベースコンポーネント名は次のとおりです。

移行するデータ	指定する <i>database_component</i> 値
ActiveTransfer Server	ActiveTransfer
ビジネスプロセスのランタイム	ProcessAudit、ProcessEngine、Archive、Staging、Reporting
ビジネスルール	BusinessRules
Integration Server	ISInternal、ISCoreAudit、CrossReference、DocumentHistory、DistributedLocking
My webMethods Server	MywebMethodsServer
OneData	OneDataMetadata、OneDataReleaseArea、OneDataWorkArea
Optimize	Analysis、ProcessTracker、ProcessAudit、DataPurge
Trading Networks	TradingNetworks、TradingNetworksArchive

### データベースコンポーネントの移行

**重要：**データベースコンポーネントを 9.6 に移行すると、これらのコンポーネントは古い環境で使用できなくなります。

Database Configuration 9.6 をインストールしたマシンでコマンドウィンドウを開き、9.6\_Software AG\_directory\common\db\bin ディレクトリに移動して、以下のコマンドを実行してデータベースコンポーネントを移行します。各コマンドを実行した後に、9.6\_Software AG\_directory\common\db\logs ディレクトリにあるログファイル dcc\_yyyymmddhhmmss を確認します。

- すべてのデータベースコンポーネントを移行する場合は、次のコマンドを実行します。

```
dbConfigurator.{bat|sh} -a migrate -d {oracle|sqlserver|db2luw} -c all  
  
-v latest -l db_server_URL -u existing_db_user -p password
```

**メモ：**通常は (製品スイートのすべての製品を所有しないため) すべてのデータベースコンポーネントを使用しないため、使用しないデータベースコンポーネントの移行に失敗したことを通知するメッセージがログファイルに記録されます。このメッセージは無視できます。

- すべてのデータベースコンポーネントを移行しない場合は、移行する必要のある各データベースコンポーネントについて次のコマンドを実行します。

```
dbConfigurator.{bat|sh} -a migrate -d {oracle|sqlserver|db2luw}  
  
-c database_component_name -v latest -l db_server_URL -u existing_db_user  
  
-p password
```

### サイドバイサイドアップグレードの完了

サイドバイサイドアップグレード手順を完了するには、後続の製品固有の章の手順を実行します。多くの製品では、これらの章で実行する手順に、古いインストールから新しいインストールにデータを自動的に移行する移行ユーティリティの実行が含まれています。以下の節では、移行ユーティリティの一般的な動作について説明します。一般的な動作に対する例外がある場合は、製品固有の章に記載しています。

#### 移行ユーティリティ

製品によっては、何も情報を入力せずに移行ユーティリティが実行されます。移行するデータを選択したり以下のようなオプションが用意されていたりする製品の移行ユーティリティもあります。

- カスタムの移行では、移行するデータを選択できます。ユーティリティに表示される一連のプロンプトで設定を入力し、選択したデータが移行されます。設定をエクスポートして、他のアップグレードで使用することができます。
- インポートした設定を使用して、移行を実行できます。インポートする設定は、カスタムの移行から、または製品インストールで指定したデフォルトの移行からエクスポートした設定から取得できます。デフォルトの移行の設定については、製品固有の章で説明されています。

**メモ：**移行ユーティリティを実行する場合、古いインストールへのフルパスを指定し、場合によっては 9.6 インストールへのパスも指定します。古い製品または 9.6 製品のインストール時に、インストールディレクトリとしてシンボリックリンクを指定した場合、移行ユーティリティに指定するパスは、インストール時に指定したシンボリックリンクと同じパスにする必要があります。

移行ユーティリティで一部のデータの移行が失敗した場合、次のデータの移行を続けるか、移行を中断するかを尋ねられます。中断を選択すると、ユーティリティは終了します。この場合、9.6 製品インストールは元の状態に戻りません。問題を解決して、ユーティリティを再実行できます。

移行ユーティリティにより、移行の詳細情報がコマンドウィンドウと 9.6\_Software AG\_directory\install\logs ディレクトリの migrationLog.txt ファイルに書き込まれます。デフォルトでは、このユーティリティにより、INFO、ERROR、および FATAL メッセージがログに書き込まれます。製品の移行のログレベルを DEBUG に引き上げる場合は、log4j.properties ファイルが含まれる製品ディレクトリ (たとえば 9.6\_Software AG\_directory\product\bin\migrate または \migrate\bin ディレクトリ) に移動して、テキストエディタでファイルを開きます。log4j.logger.Migration プロパティを DEBUG, MigrationFile に設定してから、ファイルを保存して閉じます。

### 圧縮ファイルを古いインストールとして使用する

新旧の製品インストールが異なるマシン上にある場合、移行するデータのソースとして、古い製品インストールの圧縮ファイルを使用できます。このマニュアルの手順では、Java Archive ツールを使用して圧縮ファイルを作成します。古い製品インストールをホストするマシンで JAVA\_HOME および PATH システム変数に Java Archive ツールの場所を指定します。ツールは Software AG\_directory\jvm\jvm\bin ディレクトリにあります。

---

**メモ：**一部のシステムでは、下位レベルの jvm ディレクトリ名に、\jvm\jvm160\_32、\jvm\jvm170、\jvm\jvm\_64 など、追加的な情報が含まれます。

---

圧縮ファイルを 9.6 マシンにコピーする場合は、バイナリファイル転送モード / タイプを使用します。他のモード / タイプを使用すると、圧縮ファイルが壊れることがあります。





# 3 製品スイートインフラストラクチャアップグレードの完了

---

■ 概要	26
■ 8.2 からのアップグレード: インフラストラクチャのアップグレードの完了	26
■ 9.0 または 9.5 からのアップグレード: インフラストラクチャアップグレードの完了	28

## 概要

---

インフラストラクチャコンポーネントは、多くの製品と共に自動的にインストールされます。この章の各節で参照されるファイルが見つからない場合、お使いの製品ではこれらのインフラストラクチャコンポーネントは必要ないため、ここでの手順はアップグレードに必要ありません。

## 8.2 からのアップグレード：インフラストラクチャのアップグレードの完了

---

インフラストラクチャ移行ユーティリティを実行して、設定とカスタマイズを移行して、インフラストラクチャアップグレードを完了します。ユーティリティは、以下の内容を移行します。

- インフラストラクチャの設定
- Software AG Runtime の設定 (存在する場合)
- ポートおよび JAAS 設定、ユーザーポジトリ

同じベンダーの JVM を使用している場合、インフラストラクチャ移行ユーティリティは、Windows システムから別の Windows システムへの移行、および UNIX システムから別の UNIX システムへの移行をサポートします。移行ユーティリティは、任意のオペレーティングシステムから異なるオペレーティングシステムへの移行をサポートしません (たとえば、Windows システムから UNIX システムへの移行、またはこの逆方向の移行をサポートしません)。webMethods の 9.6 リリースおよびでサポートされるシステムのリストは、『webMethods System Requirements』を参照してください。

## インフラストラクチャ移行ユーティリティの実行

移行ユーティリティの動作の概要については、[22 ページ](#)の「[移行ユーティリティ](#)」を参照してください。インフラストラクチャ移行ユーティリティは、何も情報を入力せずに実行されます。エラーが発生すると、ユーティリティは終了します。

- 1 新旧のインストールにある全製品がシャットダウンしていることを確認します。
- 2 新旧のインストールが異なるマシン上にある場合、[23 ページ](#)の「[圧縮ファイルを古いインストールとして使用する](#)」を参照して、古いインストールから必要なファイルを取得して圧縮ファイルを作成します。古いマシンでコマンドウィンドウを開いて、古い Software AG ディレクトリ (たとえば、C:\SoftwareAG または /opt/softwareag) に移動し、次のコマンドを実行します。

```
jar cfM Zip_file_name.zip common\conf install\products profiles\CTP
```

---

**メモ：**「profiles\CTP: no such file or directory」というメッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視できます。

---

圧縮ファイルを 9.6 マシンにコピーします。

- 3 9.6 マシンで、コマンドウィンドウを開いて、9.6\_Software AG\_directory\common\migrate\osgi\bin ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
migrate.{bat|sh}

{-srcDir|-srcFile} full_path_to_{old_Software AG_directory/Zip_file}

-destDir full_path_to_9.6_Software AG_directory

-importFile full_path_to_9.6_Software
AG_directory\common\migrate\osgi\bin\migrate822sbs.dat

-silent true
```

- 4 古いインストールディレクトリと 9.6 のインストールディレクトリの両方で、Software AG\_directory\profiles\CTP ディレクトリが表示される場合、9.6\_Software AG\_directory\profiles\CTP\bin\migrate ディレクトリに移動して、次のコマンドを実行します。

```
migrate.{bat|sh}

{-srcDir|-srcFile} full_path_to_{old_Software AG_directory/Zip_file}

-destDir full_path_to_9.6_Software AG_directory

-importFile full_path_to_9.6_Software
AG_directory\profiles\CTP\bin\migrate\migrate822sbs.dat

-silent true
```

## 設定とカスタマイズの移行

- System Management Hub の HTTP および HTTPS ポートを移行します。古いディレクトリと 9.6 Software AG ディレクトリの両方で InstanceManager ディレクトリが表示される場合、以下の手順に従います。
  - 古い環境と 9.6 の環境で、Software AG\_directory\InstanceManager\smh ディレクトリ内の login.htm ファイルを開きます。2 つのファイルでポート値が異なる場合は、古いほうの値を 9.6 の値に上書きコピーします。
  - 古い環境と 9.6 の環境で、Software AG\_directory\profiles\CTP\workspace\webapps\smh ディレクトリ内の login.htm ファイルを開きます。2 つのファイルでポート値が異なる場合は、古いほうの値を 9.6 の値に上書きコピーします。
  - index.html ファイルに対して前の手順を繰り返します。
- ジャーナルロガー設定を移行します。古い環境と 9.6 の環境で、Software AG\_directory\profiles\CTP\configuration\logging ディレクトリ内の log\_config.xml ファイルを開きます。2 つのファイルで値が異なる場合は、古いほうの値を 9.6 の値に上書きコピーします。
- パスワードマネージャ設定を移行します。
  - 古い環境と 9.6 の環境で、Software AG\_directory\profiles\CTP\configuration\security\passman ディレクトリ内の scPassMan.config.xml ファイルを開きます。2 つのファイルで値が異なる場合は、古いほうの値を 9.6 の値に上書きコピーします。
  - old\_Software AG\_directory\profiles\CTP\configuration\security\passman ディレクトリに移動して、defaultPassStore.dat および mpw.dat ファイルを 9.6 インストールの同じディレクトリにコピーします。
- 本製品の Java サービスラッパーをカスタマイズすることができます。たとえば、Java 引数を追加したり、メモリやログを設定したりできます。8.2 wrapper\_conf または custom\_wrapper.conf ファイルから、9.6 custom\_wrapper.conf ファイルにすべてのカスタマイズをコピーします。ファイルは Software AG\_directory\profiles\CTP\configuration ディレクトリにあります。

- 5 Web Services Stack 設定を移行します。old\_Software AG\_directory\profiles\CTP\workspace\wsstack\repository\conf ディレクトリに移動して、axis2.xml ファイルを 9.6 インストールの同じディレクトリにコピーします。コピーしたファイルで、name 属性が http である transportReceiver 要素、および name 属性が https である transportReceiver 要素を削除するかコメントアウトします。

## 9.0 または 9.5 からのアップグレード：インフラストラクチャアップグレードの完了

---

### ポート設定の移行

- 1 次のように HTTP ポート設定を移行します。
  - a old\_Software AG\_directory\profiles\CTP\configuration\com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリに移動します。com.softwareag.catalina.connector.http.pid-port.properties ファイルが 1 つしかない場合は、そのファイルを開きます。その名前の複数のファイルがある場合は、9.6 でデフォルトポートにするポートを指定しているファイルを開きます。
  - b 9.6 インストールで同じディレクトリに移動し、com.softwareag.catalina.connector.http.pid-port.properties ファイルを開きます。
  - c 2 つのファイルで値が異なる場合は、古いほうの値を 9.6 の値に上書きコピーします。
  - d 前述の古いディレクトリで、HTTP ポートについてのその他の com.softwareag.catalina.connector.http.pid-port.properties ファイルがあるかどうか確認します。それらすべてのファイルを 9.6 のディレクトリにコピーし、コピーしたそれぞれのファイルに以下の要素を追加します。
    - alias=unique\_identifier。この Software AG 固有の属性は、Platform Manager で設定を表示するときに、各コネクタを一意に識別します。上記で設定したデフォルトの HTTP コネクタの alias は defaultHttp です。その alias を基に一意のサフィックスを追加して、各コネクタの alias を作成します (alias=defaultHttp2、alias=defaultHttp3 など)。
    - enabled=true。この Software AG 固有の属性および値は、このコネクタを起動するために必要です。
- 2 前の手順を繰り返して HTTPS ポート設定を移行します。ただし、com.softwareag.catalina.connector.https.pid-port.properties ファイルを使用して、alias=defaultHttps をデフォルトの HTTPS コネクタに追加します。
- 3 JMS ポート設定を移行します。古い環境と 9.6 の環境で、Software AG\_directory\profiles\CTP\configuration\com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリ内の com.softwareag.jmx.connector.pid-port.properties ファイルを開きます。2 つのファイルで値が異なる場合は、古いほうの値を 9.6 の値に上書きコピーします。

### その他の設定とカスタマイズの移行

- 1 System Management Hub の HTTP および HTTPS ポートを移行します。古いディレクトリと 9.6 Software AG ディレクトリの両方で InstanceManager ディレクトリが表示される場合、以下の手順に従います。
  - a 古い環境と 9.6 の環境で、Software AG\_directory\InstanceManager\smh ディレクトリ内の login.htm ファイルを開きます。2 つのファイルでポート値が異なる場合は、古いほうの値を 9.6 の値に上書きコピーします。
  - b 古い環境と 9.6 の環境で、Software AG\_directory\profiles\CTP\workspace\webapps\smh ディレクトリ内の login.htm ファイルを開きます。2 つのファイルでポート値が異なる場合は、古いほうの値を 9.6 の値に上書きコピーします。

- c index.html ファイルに対して前の手順を繰り返します。
- 2 ジャーナルロガー設定を移行します。古い環境と 9.6 の環境で、Software AG\_directory\profiles\CTP\configuration\logging ディレクトリ内の log\_config.xml ファイルを開きます。2つのファイルで値が異なる場合は、古いほうの値を 9.6 の値に上書きコピーします。
- 3 パスワードマネージャ設定を移行します。
  - a 古い環境と 9.6 の環境で、Software AG\_directory\profiles\CTP\configuration\security\passman ディレクトリ内の scPassMan.config.xml ファイルを開きます。2つのファイルで値が異なる場合は、古いほうの値を 9.6 の値に上書きコピーします。
  - b old\_Software AG\_directory\profiles\CTP\configuration\security\passman ディレクトリに移動して、defaultPassStore.dat および mpw.dat ファイルを 9.6 インストールの同じディレクトリにコピーします。
- 4 JAAS 設定を移行します。old\_Software AG\_directory\profiles\CTP\configuration ディレクトリに移動して、jaas.config ファイルを 9.6 インストールの同じディレクトリにコピーします。コピーしたファイルを開いて、old\_Software AG\_directory\common\conf\users.txt、roles.txt、および groups.txt へのすべての参照を、9.6 インストール内の同一ファイルへの参照に置き換えます。
- 5 本製品の Java サービスラッパーをカスタマイズすることができます。たとえば、Java 引数を追加したり、メモリやログを設定したりできます。古い wrapper\_conf または custom\_wrapper.conf ファイルから、9.6 custom\_wrapper.conf ファイルにすべてのカスタマイズをコピーします。ファイルは Software AG\_directory\profiles\CTP ディレクトリにあります。
- 6 シングルサインオンサービス設定を移行します。
  - a old\_Software AG\_directory\common\conf ディレクトリに移動して、keystore.jks および platform\_truststore.jks ファイルを 9.6 インストールの同じディレクトリにコピーします。
  - b シングルサインオン設定をカスタマイズした場合、古い環境と 9.6 の環境で、Software AG\_directory\profiles\CTP\configuration\com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリ内の com.softwareag.sso.pid.properties ファイルを開きます。カスタマイズの内容を古いファイルから 9.6 のファイルにコピーします。
- 7 ユーザリポジトリを移行します。old\_Software AG\_directory\common\conf ディレクトリに移動して、users.txt、roles.txt、および groups.txt ファイルを、9.6 インストールの同じディレクトリにコピーします。
- 8 Web Services Stack 設定を移行します。old\_Software AG\_directory\profiles\CTP\workspace\wsstack\repository\conf ディレクトリに移動して、axis2.xml ファイルを 9.6 インストールの同じディレクトリにコピーします。



# 4 Messaging のアップグレードの完了

---

- webMethods Broker のアップグレードの完了 32
- Universal Messaging のアップグレードの完了 33

## webMethods Broker のアップグレードの完了

### 下位互換性

Broker Server 9.6 は、webMethods Broker 9.5、9.0、8.2 コマンドラインユーティリティ、C、C#、Java、JMS 用 Broker クライアント API、JMS 用クライアントと互換性があります。

Broker Server 9.5、9.0、および 8.2 は、webMethods Broker 9.6 コマンドラインユーティリティ、C、C#、Java 用 Broker クライアント API、My webMethods の webMethods Broker ユーザインタフェースと互換性があります。

### 8.2 からのアップグレード : Broker アセットの XML 形式から ADL 形式への移行

リリース 8.2 SP1 および SP2 では、webMethods Broker および Deployer は Broker アセットを XML 形式で格納していました。リリース 9.0 からは、webMethods Broker および Deployer は、Broker アセットを ADL 形式で格納するようになりました。アセットを XML 形式から ADL 形式に移行するには、webMethods Broker 8.2 SP3 および Deployer 8.2 を使用する必要があります。以下の手順で Deployer を使用方法については、8.2 および 9.6 リリース用の『webMethods Deployer User's Guide』を参照してください。

- 1 アセットがソース .xml ファイルのみで使用でき、webMethods Broker 8.2 SP3 に存在しない場合は、Deployer 8.2 を使用してアセットをソース .xml ファイルから webMethods Broker 8.2 SP3 に展開します。
- 2 My webMethods メッセージングユーザインタフェースを 8.2 SP3 に更新します。old\_Software AG\_directory\MWS\bin ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
mws -s server_instance update -Dcomponents.override=true
```
- 3 以下のようにして、アセットを ADL 形式にエクスポートします。
  - a My webMethods メッセージングユーザインタフェース 8.2 SP3 で、[管理] > [メッセージング] > [Broker Server] > [サーバ] ページに移動し、アセットのエクスポート元となる Broker Server をクリックします。
  - b [Broker] タブをクリックして、アセットのエクスポート元となる Broker をクリックします。Broker がリストに表示されない場合は、検索機能を使用して検索します。
  - c [Broker の詳細ページ] で、[ファイルにエクスポート] タブをクリックし、エクスポートするアセットを選択して [ファイルにエクスポート] をクリックします。
- 4 Software AG Installer を起動し、[Infrastructure] > [Libraries] > [Broker and JMS Libraries 8.2 SP3] を Deployer 8.2 および Asset Build Environment 8.2 が含まれているインストールディレクトリにインストールします。
- 5 Deployer 8.2 を使用して、アセットをリポジトリベースの展開用に ADL 形式で構築します。手順については、『Administering webMethods Broker9.6』 および 『webMethods Deployer User's Guide9.6』で展開用にアセットを構築する説明を参照してください。
- 6 Deployer 9.6 を使用して ADL 形式の Broker アセットを webMethods Broker 9.6 に展開します。
- 7 My webMethods Server 8.2、および Deployer 8.2 をホストしている Integration Server 8.2 をシャットダウンします。

### Broker Server 9.6 の作成および古い記憶領域の使用

- 1 古いデータディレクトリをバックアップします。
- 2 old\_Software AG\_directory\Broker\bin ディレクトリに移動し、古い awbrokermon.cfg ファイルをバックアップします。



- 3 古い Broker Server を停止し、old\_Software AG\_directory\Broker\bin ディレクトリに移動して、次のコマンドを実行します。

```
server_config remove full_path_to_old_data_directory
```

Broker Monitor 設定から Broker Server を削除するかどうか尋ねられたら、「Y」を入力します。

- 4 データディレクトリを新しい場所にコピーする必要がある場合 (新旧の webMethods Broker インストールが異なるマシン上にあるためなど)、以下の手順に従います。

a 古いデータディレクトリを新しい場所にコピーします。記憶領域ファイルがデータディレクトリの外部にあった場合は (たとえば .stor および .data ファイル)、それらのファイルもコピーします。

b 9.6 マシンで、コマンドウィンドウを開いて、9.6\_Software AG\_directory\Broker\bin ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。古い記憶領域ファイルもコピーした場合は、各ファイルの qs\_map\_file パラメータを指定します。

```
server_config relocate full_path_to_new_data_directory
[-qs_map_file full_path_to_old_file full_path_to_new_file]
```

- 5 Broker Server 9.6 を作成します。9.6 マシンで、コマンドウィンドウを開いて、9.6\_Software AG\_directory\Broker\bin ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。Broker Server 9.6 の詳細が Broker Monitor 9.6 起動設定に自動的に追加されます。Broker Server 9.6 用のポート番号が古い Broker Server のものと同じであることを確認します。

```
server_config add full_path_to_old_data_directory -k 9.6_license_file
-p old_release_port
```

- 6 Broker Server 9.6 が稼働中であることを次のように確認します。

システム	ステップ
Windows	1 Windows の [ サービス ] ウィンドウを開いて、[ Software AG Broker Server 9.6 (ポート番号) ] サービスのステータスが [ 開始 ] になっていることを確認します。
	2 サービスを右クリックし、[ プロパティ ] をクリックします。[ 実行ファイルのパス ] フィールドが 9.6 の awbroker ファイルをポイントしていることを確認します。
UNIX	1 コマンド <code>ps -ef   grep awbroker</code> を実行します。このコマンドにより、実行中のすべての Broker プロセスと、その実行ファイルへのパスが出力されます。出力テキストに <code>full_path_to_9.6_Software AG_directory/Broker/bin/awbroker -d full_path_to_old_data_directory</code> のような行が表示されていることを確認します。
	2 awbroker プロセスが実行中であり、かつ 9.6 の awbroker ファイルから実行されていることを確認します。

## Universal Messaging のアップグレードの完了

Universal Messaging のアップグレードを完了するには、Universal Messaging 移行ユーティリティを実行します。

Universal Messaging をインストールするとき、Installer は umserver という名前のデフォルトサーバインスタンスを作成します。古い Universal Messaging をインストールした後、追加のサーバインスタンスを作成している場合もあります。移行ユーティリティは、デフォルトサーバのデータを移行します。次に、ユーティリティは、古いインストール内でユーザが作成した各サーバインスタンスに対して、9.6 インストール内に対応するサーバインスタンスを作成し、古いインスタンスのデータディレクトリとライセンスファイルを 9.6 インストールに移行します。

### データを移行する前に

- 1 すべての古い Universal Messaging サーバインスタンスがシャットダウンしていることを確認します。9.6 インストールでサーバインスタンスを実行している場合 (たとえば、デフォルトサーバインスタンス umserver)、これらのサーバが同様にシャットダウンしていることを確認してください。
- 2 古いインストールおよび 9.6 Universal Messaging のインストールが異なるマシン上にある場合、[23 ページの「圧縮ファイルを古いインストールとして使用する」](#)を参照して、古い Universal Messaging インストールの内容で圧縮ファイルを作成します。古いマシンでコマンドウィンドウを開き、古い Universal Messaging インストールディレクトリ (たとえば、C:\old\_Software AG\_directory\nirvana または /opt/old\_Software AG\_directory/nirvana) に移動し、次のコマンドを入力します。

```
jar cfM Zip_file_name.zip server lib
```

圧縮ファイルを 9.6 マシンにコピーします。

### Universal Messaging 移行ユーティリティの実行

移行ユーティリティの動作の概要については、[22 ページの「移行ユーティリティ」](#)を参照してください。Universal Messaging 移行ユーティリティでは、デフォルトの移行を提供しません。

#### カスタムの移行の実行

- 1 9.6 マシンでコマンドウィンドウを開いて、9.6\_Software AG\_directory\nirvana\tools\migrate ディレクトリに移動し、コマンド migrate.{bat|sh} を実行します。
- 2 以下のいずれかへの完全パスを尋ねられます。
  - 古い Universal Messaging インストール (たとえば、C:\old\_Software AG\_directory\nirvana または /opt/old\_Software AG\_directory/nirvana)
  - 以前に作成した圧縮ファイル
- 3 古い各サーバインスタンスを移行するかどうかを尋ねられます。インスタンスをアプリケーションとサービスのどちらとして実行しているのかをユーティリティが判断できない場合、この情報も同様に尋ねられます。

古いサーバインスタンスのデータディレクトリまたはライセンスファイルがデフォルトの場所 (それぞれ、Software AG\_directory\nirvana\server\server\_instance\data と Software AG\_directory\nirvana\server\server\_instance) にない場合、またはユーティリティがデータディレクトリまたはライセンスファイルがある場所を特定できない場合、この手順の後半で説明するように、移行ユーティリティの完了後に手動で移行を行う必要があります。

サーバインスタンスが既に 9.6 インストールに存在する場合、ユーティリティは次の操作を実行します。

- 9.6 インスタンスが古いインスタンスと同じ名前になっている場合、ユーティリティで、古いインスタンスを 9.6 インスタンスに上書き移行するかどうかを尋ねられます。「Y」を入力すると、ユーティリティは、古いインスタンスを移行する前に、9.6 インスタンスを 9.6\_Software AG\_directory\nirvana\migrationbackup ディレクトリにバックアップします。
  - 9.6 インスタンスが古いインスタンスと異なる名前になっている場合、ユーティリティはこの 9.6 インスタンスを無視します。
- 4 設定をエクスポートするかどうかを尋ねられます。このセッションから設定をインポートすることでその他の移行を実行する場合は、「Y」を入力します。それ以外の場合は、「N」を入力します。

#### インポートした設定を使用した移行

インポートする設定は、カスタムの移行からエクスポートした設定から取得します。これらの設定は、カスタムの移行を実行した 9.6\_Software AG\_directory\nirvana\tools\migrate ディレクトリ内の migrate.dat と

いう名前のファイルに保存されます。データの移行先にする Universal Messaging 9.6 インストールのホストマシンで、任意のディレクトリに migrate.dat ファイルをコピーします。

### インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する)

- 1 9.6 マシンでコマンドウィンドウを開いて、9.6\_Software AG\_directory\nirvana\tools\migrate ディレクトリに移動し、コマンド migrate.{bat|sh} を実行します。
- 2 古い Universal Messaging インストールまたは以前に作成した圧縮ファイルへの完全パスを尋ねられます。
- 3 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「Y」と入力し、プロンプトが表示されたら、migrate.dat ファイルの完全パスを指定します。

### インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない)

9.6 マシンで、コマンドウィンドウを開いて、9.6\_Software AG\_directory\nirvana\tools\migrate ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。エラーが発生すると、ユーティリティは終了します。

```
migrate.{bat|sh}
{-srcDir|-srcFile} full_path_to_{old_Universal_Messaging_directory|Zip_file}
-importFile full_path_to_migrate.dat -silent true
```

## Universal Messaging のアップグレードの完了

- 1 古いサーバインスタンスの nserver.conf または nserverdaemon.conf ファイルをカスタマイズした場合、対応する 9.6 サーバインスタンスの同じファイルに対して、同じ変更を行ってください。
- 2 サーバインスタンスの古いデータディレクトリがデフォルトの場所がないと移行ユーティリティが認識した場合、このユーティリティはデータディレクトリを移行しません。ユーザが、手動で 9.6 サーバインスタンスに移行する必要があります。ライセンスファイルについても同様です。
  - a データディレクトリを移行するには、古いサーバインスタンスから 9.6 サーバインスタンスにディレクトリをコピーします。デフォルトのデータディレクトリの場所は 9.6\_Software AG\_directory\nirvana\server\server\_instance\data です。次に、以下の手順に従います。

サーバインスタンスの実行方法	新しい (コピーした) データディレクトリをポイントするように編集するファイル
Application	新しいサーバの nserver.conf ファイル
サービス	新しいサーバの nserverdaemon.conf ファイル

- b ライセンスファイルを移行するには、古いサーバインスタンスから 9.6 サーバインスタンスにファイルをコピーします。デフォルトの場所は、Software AG\_directory\nirvana\server\server\_instance ディレクトリ内です。



# 5 My webMethods Server のアップグレードの完了

---

■ My webMethods Server のアップグレードの完了	38
■ データを移行する前に	38
■ My webMethods Server 移行ユーティリティの実行	38
■ ホスト名の検証	40

## My webMethods Server のアップグレードの完了

---

My webMethods Server のアップグレードを完了するには、My webMethods Server 移行ユーティリティを実行します。このユーティリティは、古いインストール内のサーバインスタンスを新しいインストールに移行します。

### データを移行する前に

---

- 1 古い My webMethods Server をシャットダウンしていることを確認します。

My webMethods Server のクラスタをアップグレードしている場合、クラスタ内の My webMethods Server のデータを移行する前に、すべてのクラスタノードがシャットダウンしていることを確認してください。クラスタは、同じ MywebMethodsServer データベースコンポーネントをポイントする複数のノードとして定義されます。ノードは、My webMethods Server インストール、または My webMethods Server インストール内のサーバインスタンスにすることができます。
- 2 新旧の My webMethods Server インストールが異なるマシン上にある場合、以下のいずれかの手順に従います。
  - old\_Software AG\_directory\MWS ディレクトリと old\_Software AG\_directory\install\products ディレクトリを 9.6 マシンにコピーして、古いディレクトリ構造を再作成します。たとえば、古いディレクトリ構造が C:\SoftwareAG\MWS と C:\SoftwareAG\install\products である場合、9.6 マシン上でディレクトリ構造 C:\oldMWS\MWS と C:\oldMWS\install\products を作成できます。
  - 9.6 マシン上のドライブを古いマシンにマッピングします。

### My webMethods Server 移行ユーティリティの実行

---

移行ユーティリティの動作の概要については、[22 ページの「移行ユーティリティ」](#)を参照してください。次のような例外があります。

- My webMethods Server 移行ユーティリティでは、デフォルトの移行を提供しません。
- 古い製品インストールの圧縮ファイルを移行するデータのソースとして使用できません。
- My webMethods Server の log4j.properties ファイルは、9.6\_Software AG\_directory\MWS\tools\migrate\Resources ディレクトリにあります。

### カスタムの移行の実行

- 1 9.6 マシンでコマンドウィンドウを開いて、9.6\_Software AG\_directory\MWS\bin\migrate ディレクトリに移動し、コマンド migrate.{bat|sh} を実行します。
- 2 古い My webMethods Server インストールへの完全パス (たとえば C:\old\_Software AG\_directory\MWS または /opt/old\_Software AG\_directory/MWS) を尋ねられます。
- 3 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「N」と入力します。
- 4 移行するサーバインスタンスを尋ねられます。インストールに複数のサーバインスタンスがある場合は、インスタンスごとに個別に尋ねられます。
  - a 古い My webMethods Server インストールのサーバインスタンスを移行するかどうかを尋ねられます。「Y」を入力します。
  - b サーバインスタンス名が既に My webMethods Server 9.6 インストールディレクトリに存在する場合は、古いサーバインスタンスの移行を続行できるように 9.6 サーバインスタンスを削除するかどうかを尋ねられます。「Y」を入力します。

- c 移行後のサーバインスタンスで使用する MywebMethodsServer データベースコンポーネントを尋ねられます。実稼動データベースのコピーを使用する場合、ユーティリティでは、データベース URL、ユーザ名、およびパスワードの入力を指示するプロンプトが表示されます。

**メモ：** データが含まれていない新しいデータベースは使用できません。

- 5 このセッションの設定をエクスポートするかどうかを尋ねられます。このセッションから設定をインポートすることでその他の移行を実行する場合は、「Y」を入力します。それ以外の場合は、「N」を入力します。
- 6 移行を開始するかどうかを尋ねられます。データを移行しないでユーティリティを終了する場合は「N」を入力します。データを移行する場合は「Y」を入力します。選択したデータが移行され、進捗メッセージがコマンドウィンドウおよび移行ログに出力されます。移行が正常に完了すると、ユーティリティで次の処理も実行されます。

- My webMethods Server 9.6 で使用されない古い設定ファイルを削除し、My webMethods Server 9.6 で使用されない古いプロパティを 9.6 設定ファイルから削除します。
- 古い My webMethods Server で埋め込みデータベースを使用していた場合は、データベーステーブルを古い My webMethods Server から My webMethods Server 9.6 にコピーし、テーブルを新しい形式に変換します。

- 7 8.2 からのアップグレード : CAF を使用していて、1 つ以上の CAF アプリケーション用にカスタムの Jetty 設定を 8.2 mws-web.xml ファイルに追加していた場合、移行ユーティリティは、これらのファイルを移行しています。しかし、これらのファイル内の WebApplicationContext クラスのスキーマと名前は、9.0 以降で変更されているため、カスタムの Jetty 設定は手動で移行する必要があります。

CAF アプリケーションごとに、8.2 および 9.6 WEB-INF ディレクトリ内の 8.2 mws-web.xml ファイル および 9.6 jetty-mws.xml ファイルを開きます。8.2 のカスタム Jetty 設定を 9.6 ファイルの Jetty セクションにコピーします。次にコピーした設定値を、WebApplicationContext クラス形式の新しいスキーマと名前前で設定します。以下の例では、Jetty 設定 maxFormContentSize の 8.2 での設定形式と 9.6 で設定する形式を示します。カスタム Jetty 設定では、その他の部分も同様の形式で指定します。

My webMethods Server 8.2 でのサンプル設定 :

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>

<!DOCTYPE Configure PUBLIC "-//Mort Bay Consulting//DTD Configure//EN"
"http://jetty.mortbay.org/configure.dtd">

<Configure class="com.webmethods.portal.webapp.jetty6.MwsWebApplicationContext">

  <Set name="maxFormContentSize">500000</Set>

</Configure>
```

My webMethods Server 9.6 でのサンプル設定 :

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>

<!DOCTYPE Configure PUBLIC "-//Jetty//Configure//EN"
"http://www.eclipse.org/jetty/configure.dtd">

<Configure class="org.eclipse.jetty.webapp.WebApplicationContext">

  <Set name="maxFormContentSize">500000</Set>

</Configure>
```

## インポートした設定を使用した移行

インポートする設定は、カスタムの移行からエクスポートした設定から取得します。これらの設定は、9.6\_Software AG\_directory\MWS\bin\migrate ディレクトリ内の migrate.dat というファイルに保存されま

す。データの移行先にする My webMethods Server 9.6 インストールのホストマシンで、任意のディレクトリに migrate.dat ファイルをコピーします。

### インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する)

- 1 9.6 マシンでコマンドウィンドウを開いて、9.6\_Software AG\_directory\MWS\bin\migrate ディレクトリに移動し、コマンド migrate.{bat|sh} を実行します。
- 2 古い My webMethods Server インストールへの完全パスを尋ねられます。
- 3 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「Y」と入力し、プロンプトが表示されたら、migrate.dat ファイルの完全パスを指定します。

### インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない)

9.6 マシンで、コマンドウィンドウを開いて、9.6\_Software AG\_directory\MWS\bin\migrate ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。エラーが発生すると、ユーティリティは終了します。

```
migrate.{bat|sh} -srcDir full_path_to_old_My webMethods Server_directory  
-importFile full_path_to_migrate.dat -silent true
```

### My webMethods Server の起動と再起動

- 1 9.6\_Software AG\_directory\MWS\bin ディレクトリに移動してコマンド mws.{bat|sh} -s server\_instance\_init を実行して、My webMethods Server 9.6 を起動します。9.6 コンポーネントが展開され、My webMethods Server が自動的にシャットダウンします。
- 2 My webMethods Server を再起動します。

## ホスト名の検証

---

新旧の My webMethods Server インストールが異なるマシン上にある場合は、新しいインストールのホスト名を以下の手順で検証します。

- 1 Administrator として My webMethods Server 9.6 にログオンし、[管理] > [My webMethods] > [クラスタ設定] > [MWS 用拡張 Web およびクラスタ設定] ページに移動します。
- 2 各クラスタノードの [ホスト] フィールドおよびすべてのノードの [MWS フロントエンド URL] フィールドのホスト名が正しくない場合は、ホスト名を更新します。
- 3 [クラスタの状態および制御] ページに移動し、すべてのクラスタノードを再起動します。



# 6 イベント駆動型アーキテクチャのアップグレードの完了

---

- イベント駆動型アーキテクチャのアップグレードの完了

42

## イベント駆動型アーキテクチャのアップグレードの完了

イベント駆動型アーキテクチャ移行ユーティリティを実行して、イベント駆動型アーキテクチャのアップグレードを完了します。ユーティリティは、以下の内容を移行します。

- Designer EDA Orchestrator を使用するイベントバスコンソール接続設定
- 『Event Type Store』
- 9.0 または 9.5 からのアップグレード: NERV を使用する Designer イベントバスコンソール接続設定
- 9.0 または 9.5 からのアップグレード: NERV 設定バンドル (展開した場合)

移行ユーティリティの動作の概要については、[22 ページの「移行ユーティリティ」](#)を参照してください。イベント駆動型アーキテクチャ移行ユーティリティは、情報の入力をユーザに指示するプロンプトを表示しないで実行されます。エラーが発生すると、ユーティリティは終了します。

- 1 新旧の EDA/NERV インストールが異なるマシン上にある場合、[23 ページの「圧縮ファイルを古いインストールとして使用する」](#)を参照して、古い EDA/NERV インストールから必要なファイルを取得して圧縮ファイルを作成します。古いマシンでコマンドウィンドウを開いて、古い EDA/NERV インストールを含む古い Software AG ディレクトリ (たとえば、C:\SoftwareAG または /opt/softwareag) に移動し、次のコマンドを入力します。すべてのコマンドで同じ圧縮ファイル名を指定します。

```
jar cfM Zip_file_name.zip install\products
jar ufM Zip_file_name.zip common\conf
jar ufM Zip_file_name.zip common\EventTypeStore
jar ufM Zip_file_name.zip common\nerv\bundles
```

**メモ:** バンドルディレクトリは、古いリリースで NERV 設定バンドルを展開した場合にのみ存在します。

圧縮ファイルを 9.6 マシンにコピーします。

- 2 9.6 マシンで、コマンドウィンドウを開いて、9.6\_Software AG\_directory\common\migrate\EDA\bin ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
migrate.{bat|sh} {-srcDir|-srcFile} full_path_to_{old_Software
AG_directory|Zip_file}
-destDir full_path_to_9.6_Software AG_directory
-importFile full_path_to_migrate{822|901|951}sbs.dat -silent true
```

- 3 9.6\_Software AG\_directory\common\conf ディレクトリで ConfigEDAOrchestrator.xml ファイルを開き、9.6\_Software AG\_directory\profiles\EDA\configuration\com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリで com.softwareag.platform.eda.nerv.properties ファイルを開きます。
  - a 新旧の EDA/NERV インストールが異なるマシン上にある場合、ファイルシステムパスを更新します。
  - b 9.6 JMS プロバイダをポイントするように、JMS プロバイダ参照を更新します。

# 7

## Integration Server およびホストされている製品のアップグレードの完了

---

■ Integration Server およびホストされている製品のアップグレードの完了	44
■ データを移行する前に	44
■ Integration Server 移行ユーティリティの実行	44
■ Integration Server のアップグレードの完了	47
■ ActiveTransfer のアップグレードの完了	49
■ CloudStreams のアップグレードの完了	49
■ アダプタのアップグレードの完了	50
■ eStandards モジュールのアップグレードの完了	51

## Integration Server およびホストされている製品のアップグレードの完了

Integration Server のアップグレードを完了するには、Integration Server 移行ユーティリティを実行します。このユーティリティは、ユーザ定義パッケージ、設定ファイルを移行し、9.5 以降の場合は、カスタム jar ファイルも移行します。古い Integration Server が特定の製品 (たとえば、Trading Networks) をホストしており、これらの製品が Integration Server 9.6 にも存在している場合、ユーティリティはこれらの製品のデータを移行します。

Integration Server クラスタをアップグレードする場合、続行する前に [18 ページの「Integration Server の準備」](#) を参照してください。

Deployer をホストする Integration Server をアップグレードする場合、続行する前に [76 ページの「Deployer のアップグレードの完了」](#) を参照してください。

### データを移行する前に

9.6 リリースの Integration Server では、マルチインスタンスのサポートが可能になりました。Installer により、デフォルトの Integration Server 9.6 インスタンスが作成されますが、インストール後にはユーザによる追加のインスタンスの作成が可能です。デフォルトでは、移行ユーティリティは、古い Integration Server からデフォルトインスタンスにアセットを移行します。追加のインスタンスをいくつか作成しており、デフォルトのインスタンスではなく、追加のインスタンスの 1 つにアセットを移行する場合、以下の手順に従って、移行ユーティリティのスクリプトを変更する必要があります。

- 1 Integration Server がシャットダウンしていることを確認します。
- 2 新旧の Integration Server インストールが異なるマシン上にある場合、[23 ページの「圧縮ファイルを古いインストールとして使用する」](#) を参照して、古い Integration Server インストールから必要なファイルを取得して圧縮ファイルを作成します。古いマシンでコマンドウィンドウを開き、古い Integration Server インストールディレクトリ (たとえば、C:\old\_Software AG\_directory\IntegrationServer または /opt/old\_Software AG\_directory/IntegrationServer) に移動し、次のコマンドを入力します。

```
jar cfM Zip_file_name.zip *
```

圧縮ファイルを 9.6 マシンにコピーします。

- 3 デフォルトインスタンスではなく、ユーザが作成した Integration Server 9.6 インスタンスに移行する場合、9.6\_Software AG\_directory\IntegrationServer\bin\migrate ディレクトリに移動して、migrate.{bat|sh} ファイルを開きます。-Dwatt.installer.migrate.destDir プロパティで、default を、作成したインスタンスの名前に変更します (たとえば、Dwatt.installer.migrate.destDir=\$IS\_DIR/instances/instance\_name)。

### Integration Server 移行ユーティリティの実行

移行ユーティリティの動作の概要については、[22 ページの「移行ユーティリティ」](#) を参照してください。

## カスタムの移行の実行

- 9.6 マシンでコマンドウィンドウを開いて、9.6\_Software AG\_directory\IntegrationServer\bin\migrate ディレクトリに移動します。
- 8.2 からのアップグレード: 新旧の Integration Server インストールが異なるオペレーティングシステム上にある場合は、以下の適切なコマンドを実行します。

アップグレードする環境	実行するコマンド
Windows から UNIX/Linux へ	<code>export JAVA_TOOL_OPTIONS=-Dfile.encoding=Cp1252</code>
UNIX/Linux から Windows へ	<code>set JAVA_TOOL_OPTIONS=-Dfile.encoding=UTF-8</code>

- 3 コマンド `migrate.{bat|sh}` を実行します。
- 4 以下のいずれかへの完全パスを尋ねられます。
  - 古い Integration Server インストール (たとえば、C:\old\_Software AG\_directory\IntegrationServer または /opt/old\_Software AG\_directory/IntegrationServer)
  - 以前に作成した圧縮ファイル
- 5 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「N」と入力します。
- 6 Integration Server パッケージを移行するかどうかを尋ねられます。移行できるのは、ユーザが作成したパッケージ (Designer から生成したビジネスプロセスのランタイムパッケージを含む)、および IS ドキュメントとそれらの IS ドキュメントのスキーマが含まれる eStandards Module パッケージ (WmRNPips、WmChemPayloads、WmPapinetPayloads) です。
 

一部のパッケージのみを移行するように選択した場合、ユーティリティでは、各パッケージがリストされ、移行するかどうかを尋ねられます。ビジネスプロセスのランタイムデータを移行する場合は、ビジネスプロセスランタイムパッケージを移行する必要があります。パッケージ名として、プロセスモデル名、デザイン用ツールで指定したカスタムの名前、または、Wm をプリフィックスとした (前の手順で packages.cnf ファイルに追加した) 名前を指定します。
- 7 ユーティリティにより、Integration Server 設定ファイルを移行するかどうかを尋ねられます。一部の設定ファイルのみを移行するように選択した場合、ユーティリティでは、各設定ファイルがリストされ、移行するかどうかを尋ねられます。約 50 個の設定ファイルが存在します。config\jdbc の各ファイルがリストされる全プロンプトに対して「Y」を入力する必要があります。
- 8 9.5 からのアップグレード: カスタム jar ファイルを移行するかどうかを尋ねられます。一部のカスタム jar ファイルのみを移行するように選択した場合、ユーティリティでは、各カスタム jar ファイルがリストされ、移行するかどうかを尋ねられます。
- 9 新しい 9.6 Integration Server プロパティに対して使用する動作、および 9.6 Integration Server プロパティの新しいデフォルト値を指定するように指示されます。
 

動作を選択する場合、各プロパティがリストされ、新しい動作を使用するか既存の動作を使用するかを尋ねられます。
- 10 Integration Server が他の製品 (ActiveTransfer、Mediator、アダプタ、一部の eStandards モジュールなど) をホストする場合、それらの製品のデータを移行するかどうかを尋ねられます。

**メモ:** Integration Server が Deployer をホストする場合、Deployer データを移行するかどうかを尋ねられます。76 ページの「Deployer のアップグレードの完了」を参照して、移行前に必要なタスクをすべて完了していない限り、データを移行しないでください。

- 11 Trading Networks データを移行するかどうかを尋ねられます。「Y」を入力すると、次の内容を尋ねられます。

- a Trading Networks 設定ファイルを移行するかどうか。「Y」を入力すると、ユーティリティにより、古い Trading Networks のインストールディレクトリの設定プロパティがコピーされ、Trading Networks 9.6 の新しい設定プロパティに追加されます。このファイルは、9.6\_Software AG\_directory\IntegrationServer\instances\instance\_name\packages\WmTN\config ディレクトリの properties.cnf ファイルを置き換えます。

**メモ：**Trading Networks インスタンスのクラスタがある場合、各インスタンスの設定ファイルを移行する必要があります。

- b 8.2 からのアップグレード：Trading Networks のデータを移行するかどうか。「Y」を入力すると、ユーティリティでは次の処理が実行されます。
- 登録する IDTYPE を TradingNetworks データベースコンポーネントの IDTYPE テーブルに追加します。Trading Networks では、Trading Networks パートナの参加機能を使用してパートナを作成するときに、登録する新しい IDTYPE を使用します。
  - 登録するシステムテンプレートデータを TradingNetworks データベースコンポーネントの TEMPLATE、TEMPLATEFIELD、TEMPLATEFIELDDEFS および TEMPLATEFIELDGROUPDEFS テーブルにインポートします。データは、Partner Onboarding 機能を使用して新しいパートナに送信する招待に付随するデフォルトのアンケートテンプレートに表示されます。

**メモ：**Trading Networks インスタンスのクラスタがある場合、Trading Networks データはクラスタ内の全インスタンスによって共有されるため、1 つのインスタンスのデータのみを移行します。

- 12 設定をエクスポートするかどうかを尋ねられます。このセッションから設定をインポートすることでその他の移行を実行する場合は、「Y」を入力します。それ以外の場合は、「N」を入力します。

## インポートした設定を使用した移行

インポートした設定は、以下から取得できます。

- カスタムの移行からエクスポートした設定。これらの設定は、カスタムの移行を実行した 9.6\_Software AG\_directory\IntegrationServer\bin\migrate ディレクトリ内の migrate.dat という名前のファイルに保存されます。データの移行先にする Integration Server 9.6 インストールのホストマシンで、任意のディレクトリに migrate.dat ファイルをコピーします。
- Integration Server で提供されるデフォルトの移行の設定。古いリリースごとに、設定が 9.6\_Software AG\_directory\IntegrationServer\bin\migrate ディレクトリ内の migratereleasesbs.dat というファイルに保存されます。この設定は、[44 ページの「Integration Server およびホストされている製品のアップグレードの完了」](#)にリストされたデータを移行するように移行ユーティリティに通知します。Integration Server プロパティが新しい場合または新しいデフォルトを持つ場合、デフォルトの移行で下位互換性を維持するのに最適な動作が選択されます。

### インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する)

- 1 9.6 マシンでコマンドウィンドウを開いて、9.6\_Software AG\_directory\IntegrationServer\bin\migrate ディレクトリに移動し、コマンド migrate. {bat|sh} を実行します。
- 2 古い Integration Server インストールまたは以前に作成した圧縮ファイルへの完全パスを尋ねられます。
- 3 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「Y」と入力し、プロンプトが表示されたら、migrate.dat ファイルまたは migrate{822|901|951}sbs.dat ファイルへの完全パスを指定します。

### インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない)

9.6 マシンで、コマンドウィンドウを開いて、9.6\_Software AG\_directory\IntegrationServer\bin\migrate ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。エラーが発生すると、ユーティリティは終了します。

```
migrate. {bat|sh}
{-srcDir|-srcFile} full_path_to_{old_Integration_Server_directory/Zip_file}
```

```
-importFile full_path_to_{migrate.dat|migrate{822|901|951}sbs.dat} -silent true
```

## 移行ユーティリティで実行されるその他のアクション

移行が正常に完了すると、移行ユーティリティで次の処理も実行されます。

- Integration Server 9.6 で使用されない古い設定ファイルを削除し、Integration Server 9.6 で使用されない古いプロパティを 9.6 設定ファイルから削除します。
- 古い Integration Server で埋め込みデータベースを使用していた場合、ユーティリティはデータベーステーブルを古い Integration Server から Integration Server 9.6 にコピーし、テーブルを新しい形式に変換します。
- 「Validate schemas using Xerces」という名前の新しいプロパティを既存の Web サービス記述子に追加し、この新しいプロパティに対して古い Integration Server における `watt.server.wsdl.validateWSDLSchemaUsingXerces` パラメータの値を設定します。新しいプロパティは、そのプロパティによって提供される機能を置き換えます。新しいプロパティについては、『webMethods Service Development Help9.6』を参照してください。
- 古い Integration Server が Coherence をキャッシングソフトウェアとして使用するクラスタの一部であった場合は、クラスタで Terracotta ベースのソリューションを使用するように再設定できるように、ユーティリティがクラスタリング設定を削除します。Coherence は、リリース 9.0 でサポートされなくなりました。詳細については、『webMethods Integration Server Clustering Guide9.6』を参照してください。
- 8.2 からのアップグレード : SoftwareAG-IS-Core.xml キャッシュファイルを更新して、Integration Server 9.6 用に追加されたキャッシュを含めます。
- `watt.art.connection.nodeVersion` プロパティを 2 に設定します。これにより、アダプタのパスワードが暗号化されずに Integration Server passman ストアに格納され、パスワードハンドルがアダプタ接続に格納されます。前のリリースでは、アダプタ接続パスワードは暗号化されてからアダプタ接続に格納されていました。前の動作に戻す場合は、`watt.art.connection.nodeVersion` プロパティを 1 に設定します。

## Integration Server のアップグレードの完了

### Integration Server 起動ファイルのカスタマイズ

古い Integration Server `server.{bat|sh}` または `setenv.{bat|sh}` ファイルを変更した場合、以下の手順に従います。

- 1 対応する 9.6 ファイルに変更を手動で反映します。古いファイルは `old_Software AG_directory\IntegrationServer\bin` ディレクトリに、9.6 ファイルは `9.6_Software AG_directory\IntegrationServer\instances\instance_name\bin` ディレクトリにあります。
- 2 Windows システムで、Integration Server 9.6 をサービスとしてインストールした場合は、サービスを登録解除した後、再登録します。手順については、『webMethods Integration Server Administrator's Guide9.6』を参照してください。

### WSDL の更新

入力署名、出力署名、ヘッダーまたは障害メッセージで、フィールド名が `xml` で始まる動作があるプロバイダ Web サービスを使用する場合は、以下の手順に従います。

- 1 Integration Server 9.6 を起動します。
- 2 9.6\_Software AG\_directory\install\logs ディレクトリで migrationLog.txt ファイルの内容を確認します。次のエラーが表示されている場合：  
A property watt.server.xml.ncname.encode.backward.compatibility exists in config/server.cnf with value as true. Make sure you make the required changes as specified in the upgrade documentation. Not doing so could have adverse effects as support for this property may be dropped in a future release.  
WSDL を次のように更新します。
  - a Integration Server Administrator を開き、Integration Server 9.6 をポイントします。
  - b [設定] > [拡張設定] ページに移動します。拡張設定の watt.server.xml.ncname.encode.backward.compatibility があり、この設定が True になっている場合は、False に変更します。
  - c 入力署名、出力署名、ヘッダーまたは障害メッセージで、フィールド名が xml で始まる動作があるすべてのプロバイダ Web サービスに対して、クライアントを再生成します。

### Integration Server 機能のデータベースコンポーネントへの接続およびデータベースパフォーマンスの向上

- 1 Integration Server Administrator を開き、Integration Server 9.6 をポイントします。
- 2 [設定] > [JDBC プール] ページに移動します。Integration Server に接続し、ホストされている製品をデータベースコンポーネントに接続します。手順については、『Installing webMethods Products9.6』を参照してください。
- 3 作成されたステートメントがキャッシュされるため、データベースパフォーマンスが向上します。Trading Networks 用のプールエイリアスを除くプールエイリアスごとに、[プールエイリアスの編集] 列で [編集] をクリックします。次に、[データベース URL] フィールドに DataDirect Connect 接続オプション MaxPooledStatements=35 を追加します。

---

**メモ：** Trading Networks では独自のプーリングメカニズムを使用して、作成されたステートメントがキャッシュされます。

---

- 4 Integration Server 9.6 を再起動します。

### EDA 設定の移行

9.6\_Software AG\_directory\profiles\IS\_default\configuration\com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリに移動して、com.softwareag.platform.eda.nerv.properties ファイルを開きます。新旧のインストールが異なるマシン上にある場合、ファイルシステムパスを更新します。9.6 JMS プロバイダをポイントするように、JMS プロバイダ参照を更新します。

9.0 または 9.5 からのアップグレード : old\_Software AG\_directory\profiles\IS\configuration\com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリ内の com.softwareag.platform.eda.nerv.properties ファイルを開きます。上記に示した場合を除き、このファイルの値が 9.6 ファイルの値と異なる場合は、古いほうの値を 9.6 の値に上書きコピーします。

### ホスト名の更新

新旧の Integration Server が異なるマシン上にある場合は、以下の手順に従って 9.6 のホスト名を更新します。



- 1 9.6 インストールで失敗したビジネスプロセスを再サブミットする場合は、ISCoreAudit データベースコンポーネントでホスト名を更新します。
- 2 9.6\_Software AG\_directory\IntegrationServer\config\audit ディレクトリに移動し、AuditConfig.xml ファイルを開き、Integration Server 9.6 ホスト名を反映するように <server-id> 要素を更新します。
- 3 IS\_USER\_TASKS データベーステーブルの TARGET 列でホスト名を更新します。
- 4 IS\_USER\_TASKS、WMDOCUMENT、WMERROR、WMRULEDIST、WMSECURITY、WMSERVICE、WMSERVICE4X、WMSERVICEACTIVITYLOG、WMSERVICEASSOC、WMSERVICECUSTOMFLDS、WMSESSION、WMTXIN、WMTXOUT、WMTXOUTWMCONTROL の各データベーステーブルについて、SERVERID 列を更新します。

## ActiveTransfer のアップグレードの完了

- 1 キーストアファイルを古いインストールから 9.6 インストールにコピーしてから、キーストアファイルパスを更新します。手順については、『Managing File Transfers with webMethods ActiveTransfer9.6』を参照してください。
- 2 ActiveTransfer 9.6 を設定するときは、イベントファイル操作および VFS (Virtual File System: 仮想ファイルシステム) で、ポート値、ホスト名、IP アドレスおよびローカルとリモートのファイルパスが 9.6 インストールについて適切であることを確認します。手順については、『Managing File Transfers with webMethods ActiveTransfer9.6』を参照してください。

## CloudStreams のアップグレードの完了

パッケージ WmCloudStreams 内のパブリックサービス `pub.cloudstreams.migration:migrate` を実行します。このサービスは、WmCloudStreams パッケージに依存するカスタムパッケージ内の CloudStreams アーティファクトを移行します。アーティファクトには、SOAP および REST のコネクタサービスノードや接続ノードが含まれます。このユーティリティは、移行の結果を Integration Server サーバログに記録します。

サービスの入力署名は次のとおりです。

パラメータ	説明
allPackages	ブールストリング オプション。設定： <ul style="list-style-type: none"> <li>■ WmCloudStreams に依存するすべてのカスタムパッケージから CloudStreams アーティファクトを移行する場合は <code>true</code>。</li> <li>■ パッケージパラメータに指定されたカスタムパッケージからのみ CloudStreams アーティファクトを移行する場合は <code>false</code>。これがデフォルトです。</li> </ul>
packages	オブジェクト 移行するカスタムパッケージの名前を含むストリング配列。少なくとも 1 つのパッケージ名を指定する必要があります。

サービスの出力署名は、iData レコードの配列で構成された Result というパラメータです。この配列には、入力署名で指定された各カスタムパッケージのレコードが含まれます。各レコードのフィールドは以下のとおりです。

フィールド	説明
packageName	ストリング カスタムパッケージの名前。
success	ストリング 移行が成功したか ( <code>true</code> )、失敗したか ( <code>false</code> ) を示す値。

フィールド	説明
message	ストリングパッケージ内で見つかった CloudStreams アーティファクトの数、正常に移行された CloudStreams アーティファクトの数など、移行の情報。
info	オブジェクト オプション。移行中にサービスが info メッセージを発行した場合におけるメッセージのストリング配列。
errors	オブジェクト オプション。移行中にサービスがエラーを発行した場合におけるエラーのストリング配列。

## アダプタのアップグレードの完了

古い Integration Server でアダプタがホストされていて、Integration Server 9.6 で同じリリースまたは新しいリリースのアダプタをインストールした場合は、以下のタスクを完了します。

### webMethods JDBC Adapter

アダプタが OCI ドライバを使用して Oracle RDBMS に接続する場合は、Integration Server 9.6 マシンで以下の環境変数を設定します。

プラットフォーム	環境変数の設定
Solaris	LD_LIBRARY_PATH=/ORACLE_HOME/lib
HP	SHLIB_PATH=/ORACLE_HOME/lib
AIX	LIBPATH=/ORACLE_HOME/lib
Linux	LD_LIBRARY_PATH=/ORACLE_HOME/lib

### webMethods Package for Microsoft .NET

古いインストールで wmSystem.exe.config ファイルを変更した場合、新しいインストールで、同じファイルに同じ変更を加えます。このファイルは、Software AG\_directory\IntegrationServer\DotNetHost ディレクトリにあります。

### webMethods PeopleSoft EnterpriseOne Adapter

アダプタが Oracle RDBMS に接続する場合は、old\_Software AG\_directory\IntegrationServer\lib\jars ディレクトリに移動し、Oracle JDBC ドライバファイルを 9.6\_Software AG\_directory\IntegrationServer\lib\jars\custom ディレクトリにコピーします。

### webMethods SAP Adapter

- Integration Server 9.6 マシンで UNIX を使用している場合は、そのマシンで以下の環境変数を設定します。

プラットフォーム	環境変数の設定
Linux、Solaris	LD_LIBRARY_PATH
HP	SHLIB_PATH
AIX	LIBPATH

- old\_Software AG\_directory\IntegrationServer\lib ディレクトリに移動し、ファイル名に \*sapjco\*. \* という語句が含まれているすべてのファイルを 9.6\_Software AG\_directory\IntegrationServer\lib\jars\custom ディレクトリにコピーします。
- Integration Server 9.6 マシンで Windows を使用している場合は、古い Integration Server マシン上の C:\WINDOWS\system32\drivers\etc ディレクトリに移動し、services ファイルを開き、「sapgw」という語句が含まれているすべてのエントリを 9.6 インストールの同じファイルにコピーします。たとえば、sapgw00 3300/tcp、sapgw01 3301/tcp、sapgw02 3302/tcp、sapgw03 3303/tcp、sapgw04 3304/tcp、sapgw05 3305/tcp などのエントリがあります。

## webMethods WebSphere MQ Adapter

アダプタが Windows システム上にインストールされていて、WebSphere MQ バックエンドがリモートマシン上にインストールされている場合は、WebSphereMQ\_directory\java\lib ディレクトリに移動し、mqjbnndnn.dll ファイルを path システム環境変数内にあるローカルディレクトリにコピーします。

## eStandards モジュールのアップグレードの完了

---

古い Integration Server で eStandards モジュールがホストされていて、Integration Server 9.6 で同じリリースまたは新しいリリースのモジュールをインストールした場合は、以下のタスクを完了します。

### webMethods FIX Module

Integration Server 9.6 に同じリリースの FIX Module をインストールした場合、old\_Software AG\_directory\IntegrationServer\packages に移動して、WmFIXMessages パッケージを 9.6\_Software AG\_directory\IntegrationServer\instances\instance\_name\packages ディレクトリにコピーします。

### webMethods SWIFT FIN Module

Integration Server 9.6 に同じリリースの SWIFT FIN Module をインストールした場合、old\_Software AG\_directory\IntegrationServer\packages に移動して、WmFINMessages パッケージを 9.6\_Software AG\_directory\IntegrationServer\instances\instance\_name\packages ディレクトリにコピーします。

### webMethods SWIFTNet Module

モジュールを再設定します。詳細については、『webMethods SWIFTNet Module Installation and User's Guide』を参照してください。



# 8 Terracotta のアップグレードの完了

---

- Terracotta のアップグレードの完了

54

## Terracotta のアップグレードの完了

この手順では、単一サーバ、またはミラーグループ (アクティブサーバとミラーサーバで構成される) を持つ 3.7.6 以前の Terracotta Server Array のアップグレードを完了する方法について説明します。その他のすべての設定については、Terracotta 3.7.6 のマニュアルを参照してください。

- 1 古い Terracotta インストールで terracotta-license.key ファイルおよび tc-config.xml ファイルを検索し、9.6 インストールにコピーします。terracotta-license.key ファイルのデフォルトの場所は Terracotta のインストールディレクトリ、tc-config.xml ファイルのデフォルトの場所は Software AG\_directory\Terracotta\bin ディレクトリです。
- 2 新旧の Terracotta サーバが異なるマシン上にある場合、9.6 インストールにコピーした tc-config.xml ファイルを開きます。<servers> 要素で、ホスト名を 9.6 サーバのホストマシンに設定します。次に例を示します。

```
<servers>
```

```
  <server host=host_name_for_9.6_server1 name="Server1">
```

**の動作**

```
</server>
```

```
  <server host=host_name_for_9.6_server2 name="Server2">
```

**の動作**

```
</server>
```

```
</servers>
```

- 3 古い Terracotta インストールで start-tc-server.{bat|sh} ファイルを変更した場合 (たとえばヒープサイズやダイレクトメモリ設定を変更した場合)、9.6\_Software AG\_directory\Terracotta\bin ディレクトリに移動し、同様の変更を 9.6 start-tc-server.{bat|sh} ファイルに加えます。
- 4 単一サーバを使用している場合は、古い Terracotta Server Array をシャットダウンし、9.6 Terracotta Server Array を起動します。アクティブサーバとミラーサーバで構成されるミラーグループを使用している場合は、古いミラーサーバをシャットダウンしてから、古いアクティブサーバをシャットダウンします。アクティブサーバ 9.6 を起動してからミラーサーバ 9.6 を起動します。

# 9 Designer、ビジネスプロセスのランタイムおよび Blaze のアップグレードの完了

---

■ Designer データの移行	56
■ ビジネスプロセスのランタイムのアップグレードの完了	58
■ ホスト名の更新	58
■ Blaze ルールのアップグレードの完了	59

## Designer データの移行

### データを移行する前に

- 1 Designer 9.6 を開き、新しい 9.6 ワークスペースをポイントします。たとえば、デフォルトの workspace96 をそのまま使用することができます。
- 2 必要に応じて、サードパーティ機能（たとえば Subversion のサポート）をインストールします。Designer 9.6 にインストールされている Eclipse のリリースは Eclipse 4.3 であるため、追加する機能が Eclipse 4.3 と互換性があることを確認します。
- 3 イベントをアップグレードする場合は、以下の手順に従います。
  - a 9.0 からのアップグレード：[File] > [Import] ウィザードに移動します。[Select] パネルで、[Run/Debug] > [Launch Configurations] を選択して、[Next] をクリックします。[From Directory] フィールドで、“イベントバスコンソール設定のエクスポート”でイベントバスコンソール設定をエクスポートしたディレクトリに移動し、拡張子が .launch であるすべてのファイルを選択します。[Finish] をクリックします。
  - b [イベント開発] パースペクティブに移動し、[実行 / 設定の実行] メニューオプションをクリックして、イベントバスコンソールインスタンスに移動します。以下のいずれかを実行できます。
    - [Run Configurations] ダイアログボックスで、[イベントバス設定ファイル] チェックボックスを選択します。[イベントバス設定] フィールドで、9.6 Software AG\_directory\common\conf ディレクトリ内の ConfigEDAOrchestrator.xml ファイルを参照し、[適用] をクリックします。
    - [Run Configurations] ダイアログボックスで、[NERV 設定の構成] リンクをクリックします。[設定] ダイアログボックスの [NERV 設定ファイル] フィールドで、9.6\_Software AG\_directory\profiles\EDA\configuration\com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリ内の com.softwareag.platform.eda.nerv.properties ファイルを参照します。[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。
- 4 アップグレードの前に設定をエクスポートした場合、以下の手順に従います。
  - a [File] > [Import] ウィザードを選択します。[Select] パネルで、[General] > [Preferences] を選択して、[Next] をクリックします。[From preference file] フィールドに、設定をエクスポートした .epf ファイルを指定します。[Finish] をクリックします。
  - b [Window] > [Preferences] を選択します。設定ウィンドウで [Java] > [Installed JREs] > [Execution Environments] ページに移動します。複数の JRE がリストされている場合は、JRE 1.7 がデフォルトとして選択されていることを確認するか、またはリストから JRE 1.6 を削除します。古い製品インストールをポイントしている設定を更新して、9.6 製品インストールをポイントするようにします。たとえば My webMethods Server の場合、[Server] > [Runtime Environments] 設定を更新します。

### ビジネスプロセスとビジネスルールプロジェクトの移行

- 1 Designer 9.6 を起動します。
- 2 プロジェクトがソースコントロールシステムに保存されている場合は、そのシステム用のインポートウィザードを使用します（たとえば [Import SVN] > [Project from SVN]）。プロジェクトが Designer ワークスペースに保存されている場合は、以下の手順に従います。
  - a [File] > [Import] ウィザードを選択します。
  - b [Select] パネルで、[General] > [Existing Projects into Workspace] を選択して [Next] をクリックします。
  - c [Import Projects] パネルで、以下の手順に従います。



- 1 [Select Root Directory] をクリックして、インポートする種類のプロジェクトがあるワークスペースに移動します。または、[Select Archive File] をクリックして、インポートする種類のプロジェクトがあるディレクトリに移動します。
- 2 [Projects] ボックスで、インポートするプロジェクトを選択します。[Copy projects into workspace] を選択します。[Finish] をクリックします。
- 3 以下の点を確認します。
  - インポートしたすべてのビジネスプロセスプロジェクトが [ソリューション] タブの [プロセス] ノードの下に表示されている。
  - インポートしたすべてのビジネスルールプロジェクトが [ソリューション] タブの [ルール] ノードの下に表示されている。
- 4 ビジネスルールプロジェクトをインポートした場合は、[ルールエクスプローラ] で各プロジェクトを右クリックし、[プロジェクトのアップグレード] をクリックします。

## タスクアプリケーションプロジェクトの移行

- 1 Designer 9.6 で、[ウィンドウ] > [設定] > [サーバ] > [Runtime Environments] を選択します。インストールされているサーバランタイムのリストに My webMethods Server 9.6 が含まれていない場合は、このランタイムを追加します。
- 2 [Software AG] > [タスク開発] に移動します。設定ウィンドウで、その他のタスク関連の Designer 設定がすべて正しいことを確認し、[OK] をクリックします。
- 3 [File] > [Import] ウィザードを選択します。
  - a [Select] パネルで、[Software AG] > [既存の CAF プロジェクトをワークスペースへ] に移動して [Next] をクリックします。
  - b [Import Projects] パネルで、[Select Root Directory] をクリックして、タスクアプリケーションプロジェクトがあるワークスペースまたはソースコントロールシステムに移動します。または、[Select Archive File] をクリックして、タスクアプリケーションプロジェクトがあるディレクトリに移動します。[Projects] ボックスで、インポートするプロジェクトを選択します。
  - c [Copy projects into workspace] を選択し、[Finish] をクリックします。
- 4 インポートしたすべてのタスクのアプリケーションプロジェクトが [ソリューション] タブの [タスク] ノードの下に表示されていることを確認してください。
- 5 エラーが [Problems] タブに表示される場合、[Navigator] タブをクリックします。各タスクアプリケーションプロジェクトを右クリックして、[CAF ツール] > [CAF プロジェクトの修復] をクリックします。エラーが消えない場合は、Designer を再起動してください。
- 6 移行したタスクアプリケーションプロジェクトを My webMethods Server 9.6 にパブリッシュします。手順については、『webMethods BPM Task Development Help9.6』を参照してください。

## CloudStreams のサーバ定義とプロジェクトの移行

- 1 Designer 9.6 を起動します。
- 2 CloudStreams サーバ定義を以下の手順に従ってインポートします。
  - a [CloudStreams 開発] パースペクティブに移動して、[ウィンドウ] > [設定] に移動します。[設定] ダイアログボックスにある左側のナビゲーションバーで、[Software AG] > [CloudStreams Server] を選択します。
  - b [インポート] をクリックして、エクスポートした .properties ファイルを選択し、[開く] をクリックします。既存のサーバを上書きするかどうかを尋ねられます。[OK] をクリックし、もう一度 [OK] をクリックして [Preferences] ダイアログボックスを閉じます。
- 3 CloudStreams Governance プロジェクトを以下の手順に従ってインポートします。

- a [File] > [Import] ウィザードを選択します。[選択] パネルで、[Software AG] > [CloudStreams Governance プロジェクト] に移動して [次へ] をクリックします。
  - b [CloudStreams Governance プロジェクトのインポート] パネルで、エクスポートしたプロジェクトを含むディレクトリを、[ルートディレクトリの選択] フィールドに指定します。[Projects] ボックスで、インポートするプロジェクトを選択します。
  - c [Copy projects into workspace] を選択し、[Finish] をクリックします。
  - d [CloudStreams 開発] パースペクティブで、インポートしたすべての Governance プロジェクトが [CloudStreams Governance] タブに表示されていることを確認します。
- 4 前の手順を繰り返して CloudStreams Provider プロジェクトをインポートします。

### Integration Server 定義の移行

- 1 Designer 9.6 で、[ウィンドウ] > [設定] を選択します。[Preferences] ダイアログボックスにある左側のナビゲーションバーで、[Software AG] > [Integration Server] を選択します。
- 2 [インポート] をクリックして、エクスポートした .properties ファイルを選択し、[開く] をクリックします。既存のサーバを上書きするかどうかを尋ねられます。[OK] をクリックし、もう一度 [OK] をクリックして [Preferences] ダイアログボックスを閉じます。

## ビジネスプロセスのランタイムのアップグレードの完了

---

**メモ：**9.6 にアップグレードする前に作成したプロセスモデルに基づくプロセスインスタンスが稼働中で、Designer 9.6 でそのプロセスモデルを再生成する場合は、再生成する前にプロセスモデルのバージョン番号を次のシーケンス番号に変更します。そうしないと、プロセスインスタンスが想定通りに動作しません。My webMethods Server で実行するためにプロセスモデルの新しいバージョンを有効にすると、稼働中のプロセスをアップグレードするかどうかの確認を求められますが、[いいえ] と答えます。

- 1 “Messaging のアップグレードの完了” の手順を使用して webMethods Broker を 9.6 に移行した場合、9.6 でも Process Engine で使用される新しい Broker に古いリリースのときと同じ名前が設定されていることを確認します。それには、Integration Server Administrator を開き、Integration Server 9.6 をポイントします。[設定] > [メッセージング] > [webMethods メッセージングの設定] ページに移動し、Broker 名を確認します。
- 2 44 ページの「Integration Server 移行ユーティリティの実行」の手順に従ってプロセスランタイムパッケージを移行した場合、パッケージが 9.6\_Software AG\_directory\IntegrationServer\instances\instance\_name\packages ディレクトリに存在していることを確認します。パッケージ名は、プロジェクト名または Designer で指定したカスタム名前です。
- 3 Integration Server Administrator を開き、Integration Server 9.6 をポイントします。[設定] > [JDBC プール] ページに移動します。ProcessEngine および ProcessAudit 機能をデータベースコンポーネントに接続します。手順については、『Installing webMethods Products9.6』を参照してください。
- 4 Integration Server 9.6 上のすべての webMethods メッセージングトリガーのドキュメント抽出が有効であることを確認します。手順については、『webMethods Integration Server Administrator’s Guide9.6』を参照してください。

### ホスト名の更新

---

ビジネスプロセス製品の新旧のインストールが異なるマシン上にある場合、PRTINSTANCEITER、PRTPROCESS、PRTPROCLOCK、PRTQUEUE、PRTSTEPLOCK、PRTSTEPSTATE、PRTSTEPSUSPENSION、WMCUSTOMLOOPDATA、WMCUSTOMPROCESSDATA、WMPROCESS、WMPROCESSASSOC、WMPROCESSBLOCKAGE、WMPROCESSSTEP、WMPROCESSSTEPLOOP、WMPROCESSTRANSITION、

WMSTG\_PROCESS\_CONTROL、WMSTG\_PROCESS\_STEP、および WMRULEDIST データベーステーブルで、SERVERID 列のホスト名を更新します。

## Blaze ルールのアップグレードの完了

---

『Using Blaze Rules with BPM and CAF9.6』の手順を使用して、Blaze ルールを移行します。



# 10 Command Central および Platform Manager のアップグレードの完了

---

- Command Central のアップグレードの完了 62
- Platform Manager のアップグレードの完了 64

## Command Central のアップグレードの完了

Command Central のアップグレードを完了するには、インフラストラクチャを移行してから、Command Central 移行ユーティリティを実行します。ユーティリティは、以下の内容を移行します。

- Command Central が管理している環境、ノード (インストール)、および製品に関するメタデータを含む環境設定
- Command Central ユーザ、役割、およびグループ
- 9.5 からのアップグレード: ライセンスツールとテンプレート

### データを移行する前に

- 1 古い Command Central をシャットダウンしていることを確認します。
- 2 新旧の Command Central インストールが異なるマシン上にある場合、23 ページの「[圧縮ファイルを古いインストールとして使用する](#)」を参照して、古い Command Central インストールから必要なファイルを取得して圧縮ファイルを作成します。古いマシンでコマンドウィンドウを開いて、古い Command Central インストールを含む古い Software AG ディレクトリ (たとえば、C:\SoftwareAG または /opt/softwareag) に移動し、次のコマンドを入力します。両方のコマンドで同じ圧縮ファイル名を指定します。

```
jar cfM Zip_file_name.zip common\conf
```

```
jar ufM Zip_file_name.zip profiles\CCE
```

### Command Central インフラストラクチャの移行

- 1 次のように HTTP ポート設定を移行します。
  - a old\_Software AG\_directory\profiles\CCE\configuration\com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリに移動します。com.softwareag.catalina.connector.http.pid-port.properties ファイルが 1 つしかない場合は、そのファイルを開きます。その名前の複数のファイルがある場合は、9.6 でデフォルトポートにするポートを指定しているファイルを開きます。
  - b 9.6 インストールで同じディレクトリに移動し、com.softwareag.catalina.connector.http.pid-port.properties ファイルを開きます。
  - c 2 つのファイルのプロパティ値を比較します。異なる点がある場合は、古いほうの値を 9.6 の値に上書きコピーします。
  - d 前述の古いディレクトリで、HTTP ポートについてのその他の com.softwareag.catalina.connector.http.pid-port.properties ファイルがあるかどうか確認します。それらすべてのファイルを 9.6 のディレクトリにコピーし、コピーしたそれぞれのファイルに以下の要素を追加します。
    - `alias=unique_identifier`。この Software AG 固有の属性は、Platform Manager で設定を表示するときに、各コネクタを一意に識別します。上記で設定したデフォルトの HTTP コネクタの alias は defaultHttp です。その alias を基に一意のサフィックスを追加して、各コネクタの alias を作成します (alias=defaultHttp2、alias=defaultHttp3 など)。
    - `enabled=true`。この Software AG 固有の属性および値は、このコネクタを起動するために必要です。
- 2 前の手順を繰り返して HTTPS ポート設定を移行します。ただし、com.softwareag.catalina.connector.https.pid-port.properties ファイルを使用して、alias=defaultHttps をデフォルトの HTTPS コネクタに追加します。
- 3 JMS ポート設定を移行します。古い環境と 9.6 の環境で、Software AG\_directory\profiles\CCE\configuration\com.softwareag.platform.config.propsloader ディレクトリ内

の `com.softwareag.jmx.connector.pid-port.properties` ファイルを開きます。2つのファイルで値が異なる場合は、古いほうの値を 9.6 の値に上書きコピーします。

- 4 ジャーナルロガー設定を移行します。古い環境と 9.6 の環境で、`Software AG_directory\profiles\CCE\configuration\logging` ディレクトリ内の `log_config.xml` ファイルを開きます。2つのファイルで値が異なる場合は、古いほうの値を 9.6 の値に上書きコピーします。
- 5 パスワードマネージャ設定を移行します。
  - a 古い環境と 9.6 の環境で、`Software AG_directory\profiles\CCE\configuration\security\passman` ディレクトリ内の `scPassMan.config.xml` ファイルを開きます。2つのファイルで値が異なる場合は、古いほうの値を 9.6 の値に上書きコピーします。
  - b `old_Software AG_directory\profiles\CCE\configuration\security\passman` ディレクトリに移動します。`defaultPassStore.dat` および `mpw.dat` ファイルを 9.6 インストール内の同じディレクトリにコピーします。
- 6 本製品の Java サービスラッパーをカスタマイズすることができます。たとえば、Java 引数を追加したり、メモリやログを設定したりできます。古い `wrapper_conf` または `custom_wrapper.conf` ファイルから、9.6 `custom_wrapper.conf` ファイルにすべてのカスタマイズをコピーします。ファイルは `Software AG_directory\profiles\CCE\configuration` ディレクトリにあります。
- 7 古い環境と 9.6 の環境で、`Software AG_directory\profiles\CCE\configuration\com.softwareag.platform.config.propsloader` ディレクトリ内の `com.softwareag.platform.eda.nerv.properties` ファイルを開きます。2つのファイルで値が異なる場合は、古いほうの値を 9.6 の値に上書きコピーします。古いインストールディレクトリへの参照を、このディレクトリではなく 9.6 インストールディレクトリを参照するようにすべて更新します。

## Command Central 移行ユーティリティの実行

移行ユーティリティの動作の概要については、[22 ページの「移行ユーティリティ」](#)を参照してください。

### カスタムの移行の実行

- 1 9.6 マシンでコマンドウィンドウを開いて、`9.6_Software AG_directory\CCE\migrate\bin` ディレクトリに移動し、コマンド `migrate. {bat|}` を実行します。
- 2 以下のいずれかへの完全パスを尋ねられます。
  - 古い Command Central インストールを含む `Software AG` ディレクトリ (たとえば、`C:\old_Software AG_directory` または `/opt/old_Software AG_directory`)
  - 以前に作成した圧縮ファイル
- 3 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「N」と入力します。
- 4 環境設定データを移行するかどうかを尋ねられます。
- 5 ユーザ、役割、およびグループを移行するかどうかを尋ねられます。
- 6 9.5 からのアップグレード: ライセンスツールとテンプレートを移行するかどうかを尋ねられます。
- 7 設定をエクスポートするかどうかを尋ねられます。このセッションから設定をインポートすることでその他の移行を実行する場合は、「Y」を入力します。それ以外の場合は、「N」を入力します。

### インポートした設定を使用した移行

インポートした設定は、以下から取得できます。

- カスタムの移行からエクスポートした設定。これらの設定は、`migrate.dat` というファイルに保存されます。このファイルは、カスタムの移行を実行した `9.6_Software AG_directory\CCE\migrate\bin` ディレクトリに保存されます。データの移行先にする Command Central 9.6 インストールのホストマシンで、任意のディレクトリに `migrate.dat` ファイルをコピーします。

- Command Central で提供されるデフォルトの移行の設定。古いリリースごとに、設定が 9.6\_Software AG\_directory\CCE\migrate\bin ディレクトリ内の migraterelasesbs.dat というファイルに保存されます。この設定は、62 ページの「[Command Central のアップグレードの完了](#)」にリストされたデータを移行するように移行ユーティリティに通知します。

### インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示する)

- 1 9.6 マシンでコマンドウィンドウを開いて、9.6\_Software AG\_directory\CCE\migrate\bin ディレクトリに移動し、コマンド migrate.{bat|} を実行します。
- 2 古い Command Central インストールを含む Software AG ディレクトリまたは以前に作成した圧縮ファイルへの完全パスを尋ねられます。
- 3 移行設定をインポートするかどうかを尋ねられます。「Y」と入力し、プロンプトが表示されたら、migrate.dat ファイルまたは migrate{901|951}sbs.dat ファイルへの完全パスを指定します。

### インポートされた設定を使用して移行する (プロンプトを表示しない)

9.6 マシンで、コマンドウィンドウを開いて、9.6\_Software AG\_directory\CCE\migrate\bin ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。エラーが発生すると、ユーティリティは終了します。

```
migrate.{bat|}
{-srcDir|-srcFile} full_path_to_{old_Software AG_directory/Zip_file}
-importFile full_path_to_{migrate.dat|migrate{901|951}sbs.dat}
-silent true
```

## Platform Manager のアップグレードの完了

---

- 1 62 ページの「[Command Central インフラストラクチャの移行](#)」の手順に従って設定とカスタマイズの内容を移行します。ただし、CCE ディレクトリではなく、SPM ディレクトリでファイルを見つけます。
- 2 Platform Manager ユーザリポジトリを移行します。old\_Software AG\_directory\common\conf ディレクトリに移動します。user.txt、roles.txt、および groups.txt ファイルを 9.6\_Software AG\_directory\profiles\SPM\configuration\security ディレクトリにコピーします。



# 11 CentraSite アップグレードの完了

---

- CentraSite のアップグレードの完了

66

## CentraSite のアップグレードの完了

古い CentraSite の設定データと古い Registry Repository のアセットを圧縮ファイルにエクスポートして、このデータを CentraSite 9.6 にインポートすることで、CentraSite のアップグレードを完了します。

- 1 古い CentraSite をシャットダウンしていることを確認します。
- 2 古いマシンでコマンドウィンドウを開いて、old\_Software AG\_directory/CentraSite/utilities ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。  

```
sbsExport.{cmd|sh} /full_path_to_zip_file
```

このコマンドの例: `./sbsExport.sh/tmp/sbs_cs82_data.zip`
- 3 新旧の CentraSite インストールが異なるマシン上にある場合は、圧縮ファイルを 9.6 マシン上の任意のディレクトリにコピーします。
- 4 最新の修正を CentraSite 9.6 に適用するには、9.6 製品とともにインストールした Software AG Update Manager を使用します。手順については、『Using the Software AG Update Manager』を参照してください。
- 5 9.6 マシンでコマンドウィンドウを開いて、9.6\_Software AG\_directory/CentraSite/utilities ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。  

```
sbsImport.{cmd|sh}/full_path_to_zip_file
```

このコマンドの例: `./sbsImport.sh/tmp/sbs_cs82_data.zip`
- 6 “CentraSite の準備” でメモに書きとめた CentraSite Control の設定を変更します。
- 7 8.2 からのアップグレード: CentraSite 9.6 で CentraSite 8.2 からの ApplinX オブジェクトタイプインスタンスを使用する場合は、“CentraSite の準備” でメモに書きとめた定義を使用してこれらを手動で再作成します。
- 8 CentraSite Control の GUI 拡張であるプラグインを古い CentraSite インストールにインストールしていた場合は、CentraSite 9.6 インストールにインストールします。

# 12 OneData のアップグレードの完了

---

- OneData のアップグレードの完了

68

## OneData のアップグレードの完了

OneData のアップグレードを完了するには、OneData 移行ユーティリティを実行します。ユーティリティは設定データを移行します。移行ユーティリティの動作の概要については、22 ページの「移行ユーティリティ」を参照してください。製品インストールの圧縮ファイルを、移行するデータのソースとして使用できません。

- 1 古い OneData をシャットダウンしていることを確認します。
- 2 新旧の OneData インストールが異なるマシン上にある場合は、`old_Software_AG_directory\profiles\ODE\bin\onedata\config` ディレクトリを 9.6 マシンにコピーして、古いディレクトリ構造を再作成します。たとえば、古いディレクトリ構造が `C:\SoftwareAG\profiles\ODE\bin\onedata\config` であった場合は、9.6 マシン上にディレクトリ構造 `C:\oldOneData\profiles\ODE\bin\onedata\config` を作成できます。
- 3 9.6 マシンで、コマンドウィンドウを開いて、`9.6_Software AG_directory\profiles\ODE\bin\migrate` ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。  

```
migrate.{bat|sh} -srcDir full_path_to_old_Software AG_directory
```

古い OneData のリリース番号を尋ねられます。
- 4 本製品の Java サービスラッパーをカスタマイズすることができます。たとえば、Java 引数を追加したり、メモリやログを設定したりできます。古い `wrapper_conf` または `custom_wrapper.conf` ファイルから、9.6 `custom_wrapper.conf` ファイルにすべてのカスタマイズをコピーします。これらのファイルは `Software AG_directory\profiles\ODE\configuration` ディレクトリにあります。
- 5 8.4 からのアップグレード: OneData 8.4 では、アクションのログエントリが、複数のファイルに分散している可能性があります。OneData 9.0 以降では、デバッグを向上するため、アクションのログエントリは単一ファイルに書き込まれます。OneData モジュールに対して、新しいログ記録方式を有効にする必要があります。9.6 `Software AG_directory\profiles\ODE\bin\onedata\config` ディレクトリにある `sample_log4j_config.txt` ファイルの例に従ってください。

# 13 Optimize のアップグレードの完了

---

■ Terracotta Server Array の設定と起動	70
■ Infrastructure Data Collector インフラストラクチャの移行	70
■ Process Engine への接続の更新	70
■ Optimize Support パッケージへの接続の更新	70
■ Optimize 環境の展開	71
■ 8.2 からのアップグレード: クラスタ化された Integration Server の監視	72
■ SNMP アセットに対して収集したデータの移行	72

## Terracotta Server Array の設定と起動

リリース 9.6 で Analytic Engine をクラスタ化している場合は、Terracotta Server Array を設定して起動する必要があります。手順については、『Getting Started with the webMethods Product Suite and Terracotta 9.6』、『Configuring BAM 9.6』および Terracotta 3.7.6 のマニュアルを参照してください。

## Infrastructure Data Collector インフラストラクチャの移行


本製品の Java サービスラッパーをカスタマイズすることができます。たとえば、Java 引数を追加したり、メモリやログを設定したりできます。古い wrapper\_conf または custom\_wrapper.conf ファイルから、9.6 custom\_wrapper.conf ファイルにすべてのカスタマイズをコピーします。これらのファイルは Software AG\_directory\profiles\InfraDC\configuration ディレクトリにあります。

8.2 からのアップグレード：JAAS 設定データの構造がリリース 9.0 から変更されました。old\_Software AG\_directory\profiles\InfraDC\configuration ディレクトリに移動して、jaas.config ファイルを開きます。このファイルを変更した場合は、9.6 インストールの新しい JAAS 設定に同じ変更を追加します。

9.0 または 9.5 からのアップグレード：JAAS 設定を移行します。old\_Software AG\_directory\profiles\InfraDC\configuration ディレクトリに移動して、jaas.config ファイルを 9.6 インストールの同じディレクトリにコピーします。コピーしたファイルを開いて、old\_Software AG\_directory\common\conf\users.txt、roles.txt、および groups.txt への参照を、9.6 インストール内の同一ファイルへの参照に置き換えます（つまり、9.6 Software AG\_directory\profiles\InfraDC\configuration\security\users.txt、roles.txt、および groups.txt）。

## Process Engine への接続の更新

Optimize for Process を使用している場合は、以下の手順に従います。


- 1 Integration Server Administrator を開き、Process Engine をホストする Integration Server 9.6 をポイントします。
- 2 [パッケージ] > [管理] ページに移動して、WmPRT パッケージの  アイコンをクリックします。
- 3 左側のナビゲーションバーで [設定] をクリックして、[Process Engine 設定の編集] をクリックします。
- 4 [JMS Server の URL] フィールドで、JMS プロバイダのホスト名とポートを次のように指定します。

JMS プロバイダ	URL の形式
webMethods Broker	broker://host:port/Broker_name。デフォルトポートは 6849 です。
Universal Messaging	nsp://host:port。デフォルトポートは 9000 です。

- 5 [サブミット] をクリックして、WmPRT パッケージを再ロードします。
- 6 Integration Server をホスティングするすべての Process Engine について、上記の手順を繰り返します。

## Optimize Support パッケージへの接続の更新

Optimize 組み込みサービスを使用している場合は、以下の手順に従います。

- 1 Integration Server Administrator を開き、Optimize Support パッケージをホストする Integration Server 9.6 をポイントします。
- 2 [パッケージ] > [管理] ページに移動して、WmOptimize パッケージの  アイコンをクリックします。
- 3 Analytic Engine のホストマシンとポートを指定します。デフォルトポートは 12503 です。

- 4 [JMS Server の URL] フィールドで、JMS プロバイダのホスト名とポートを次のように指定します。

JMS プロバイダ	URL の形式
webMethods Broker	broker://host:port/Broker_name。デフォルトポートは 6849 です。
Universal Messaging	nsp://host:port。デフォルトポートは 9000 です。

- 5 [サブミット] をクリックして、WmOptimize パッケージを再ロードします。
- 6 Optimize Support パッケージをホスティングするすべての Integration Server について、上記の手順を繰り返します。

## Optimize 環境の展開

特に記述がない限り、これ以降の節で説明する Optimize の手順の詳細については、『Configuring BAM9.6』を参照してください。

**メモ：**プロセスの内在的なメトリックスのルール違反履歴は、Optimize 9.6 に移行できません。

### 古い Optimize CCS 環境定義を再利用しない場合

古い CCS (Central Configuration System) 環境定義を再利用しない場合は、My webMethods Server 9.6 を起動して My webMethods を開き、Optimize 9.6 環境を設定します。

Infrastructure Data Collector のホストを定義する場合、[ホストの追加 / 編集] ダイアログボックスの [ホスト名または IP アドレス] フィールドに、古いリリースと同じ値を入力します。



**メモ：**9.6 の値が古い値と一致しない場合、アップグレードの完了後に、既存のアセットの監視を停止してこれらを再検出し、監視対象として選択する必要があります。

Optimize 9.6 環境を展開する以下の手順に進みます。

### 古い Optimize CCS 環境定義を再利用する場合

Optimize 9.6 をインストールする前にファイルにエクスポートした古い CCS 環境定義を再利用する場合は、以下の手順に従います。

- My webMethods Server 9.6 を起動して My webMethods を開きます。
- 以下の手順に従って、古い CCS 環境をインポートします。
  - [アプリケーション] > [管理] > [システム全体] > [環境] > [環境の定義] ページに移動します。
  - [環境のインポート] をクリックします。[環境のインポート] ダイアログボックスで [参照] をクリックし、古い CCS 環境をエクスポートしたファイルを選択して [OK] をクリックします。プロンプトが表示されたら、移行を確認します。
  - 「環境を最新バージョンに移行しますか?」と尋ねられたら、[はい] をクリックします。CCS は古い環境をインポートして、そのデータを 9.6 Optimize 論理サーバに移行します。
- インポートした環境に関連付けられたデータベースプール定義に対応するように、以下の手順に従って、データベースプール接続設定を更新します。
  - [アプリケーション] > [管理] > [システム全体] > [環境] > [データベースプール設定] ページに移動します。
  - [プール] 列で、インポートしたデータベースプールをクリックします。

- c [プールの設定] 領域で、[接続数の最小値] フィールドに 8 を指定し、[接続数の最大値] フィールドに 60 を指定します。
  - d データベース接続情報が正しいことを確認します。[データベース接続] 領域で [テスト] をクリックし、ページの下部にメッセージ [テストに合格しました。] が表示されることを確認します。
  - e [Save] をクリックします。
- 4 [アプリケーション] > [管理] > [システム全体] > [環境] > [環境の定義] ページに移動します。[環境名] の下で、インポートした環境をクリックします。
  - 5 環境の妥当性を検査するには、以下の手順に従います。
    - a  アイコンを表示している各タブをクリックします ([検査] タブを除く)。タブの設定を変更し、このタブに [保存] ボタンがある場合は、[保存] をクリックします。
    - b [検査] タブを除くすべてのタブに  が表示されたら、[検査] タブをクリックします。
  - 6 [Finish] をクリックします。

## Optimize 9.6 環境の展開

- 1 インストールした Optimize 9.6 コンポーネントを起動します。これらのコンポーネントには、Analytic Engine、Infrastructure Data Collector および Web Services Data Collector があります。
- 2 Optimize 9.6 環境を展開します。手順については、『Configuring BAM9.6』を参照してください。
- 3 My webMethods で、[My webMethods] > [システム設定] > [サーバ] ページに移動します。
  - BPMS がインストールされている場合は、[BPM および BAM] オプションを選択し、アップグレードされた Analytic Engine、および Monitor をホストする Integration Server を指定します。DNS 名または IP アドレスを使用してホストを指定できます。
  - BPMS がインストールされていても BPM を使用していない場合 (つまり Optimize のみを使用している場合)、[BAM のみ] オプションを選択し、アップグレードされた Analytic Engine を指定します。DNS 名または IP アドレスを使用してホストを指定できます。

[サーバ状態の確認] をクリックして、サーバが使用可能であることを確認します (使用可能である場合は、緑色のアイコンが表示されます)。サーバが使用可能になるまでに時間がかかることがあります (15 分程度)。次に [保存] をクリックします。

## 8.2 からのアップグレード: クラスタ化された Integration Server の監視

Oracle Coherence を使用してクラスタ化された Integration Server は、これまで、Terracotta ベースのクラスタリングソリューションを代わりに使用するよう再設定されていました。現在では、クラスタ化された監視対象の Integration Server を再検出し、19 ページの「Optimize の準備」でメモに書きとめた KPI を再選択して、監視を再開することができます。手順については、『Administering webMethods Optimize9.6』を参照してください。

## SNMP アセットに対して収集したデータの移行

古い Infrastructure Data Collector インストールで SNMP アセットを監視していた場合、Infrastructure Data Collector 移行ユーティリティを実行して、収集したデータを移行します。

移行ユーティリティの動作の概要については、22 ページの「移行ユーティリティ」を参照してください。古い製品インストールの圧縮ファイルを移行するデータのソースとして使用できません。移行ユーティリティは、何も情報を入力せずに実行されます。



移行するファイルと同じ名前が付いたファイルが 9.6 Infrastructure Data Collector インストールに既に存在している場合、移行ユーティリティは、古いファイルを移行する前に、このファイルを 9.6\_Software AG\_directory\install\migrationbackup ディレクトリにバックアップします。

- 1 古い Infrastructure Data Collector をシャットダウンしていることを確認します。
- 2 新旧の Infrastructure Data Collector インストールが異なるマシン上にある場合は、old\_Software\_AG\_directory\profiles\InfraDC ディレクトリを 9.6 マシンにコピーして、古いディレクトリ構造を再作成します。たとえば、古いディレクトリ構造が C:\SoftwareAG\profiles\InfraDC であった場合は、9.6 マシン上にディレクトリ構造 C:\oldInfraDC\profiles\InfraDC を作成できます。
- 3 9.6 マシンで、コマンドウィンドウを開いて、9.6\_Software AG\_directory\infrastructuredc\bin\migrate ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
migrate.{bat|sh}
```

```
-srcDir full_path_to_old_Software AG_directory
```

```
-importFile full_path_to_migrate{822|901|951}sbs.dat} -silent true
```

## 新しい JMS プロバイダの使用

古いリリースでは JMS プロバイダとして webMethods Broker を使用していて、9.6 では Universal Messaging を使用している場合、以下の手順に従います。

- 1 Universal Messaging を起動して、Universal Messaging Enterprise Manager を開きます。
- 2 サーバインスタンスに接続して、これをクリックします。
- 3 [設定] タブをクリックします。[グローバル値] を展開して、AllowRealmAdminFullAccess を「true」に設定します。



# 14 Asset Build Environment および Deployer のアップグレードの完了

---

- Asset Build Environment のアップグレードの完了 76
- Deployer のアップグレードの完了 76

## Asset Build Environment のアップグレードの完了

old\_Software AG\_directory\common\AssetBuildEnvironment\master\_build ディレクトリに移動して、build.properties ファイルを開きます。プロパティの値を 9.6 インストールの同じファイルにコピーします。

## Deployer のアップグレードの完了

Deployer データの移行には、次の 2 つのオプションがあります。

- Integration Server 移行ユーティリティを使用して、すべての Deployer グローバル (デフォルト) 設定、エイリアス、ターゲットグループ、およびプロジェクトを移行できます。
- グローバル (デフォルト) 設定を移行するかどうかを選択できます。また、Deployer 移行機能を使用して移行するエイリアス、ターゲットグループ、およびプロジェクトを選択できます。

各オプションについては、以下で説明します。

Deployer で実行する必要があるタスクの手順については、『webMethods Deployer User's Guide』を参照してください。

### Deployer データを移行する前に

- 1 このマニュアルの手順に従って、古い Deployer で定義されたソース / ターゲットの全製品サーバを 9.6 リリースにアップグレードして、すべての製品データとアセットを 9.6 リリースに移行したことを確認します。
- 2 このマニュアルの手順に従って、Deployer 9.6 をホストする Integration Server 9.6 をアップグレードして、データを移行したことを確認します。
- 3 古い Deployer をホストしている Integration Server および Deployer 9.6 をホストしている Integration Server の両方に対して、自分自身が Administrators ACL、または、Internal、Developer ACL、Deployer Admin ACL などのメンバーになっていることを確認します。手順については、『webMethods Integration Server Administrator's Guide9.6』を参照してください。
- 4 古い Deployer で、新しい 9.6 のソース / ターゲット製品サーバをポイントするように、古いソース / ターゲット製品サーバへの接続をすべて編集します。ユーザ名とパスワードが不明な場合、これらを入力する必要はありません。
- 5 古い Deployer と同じマシンに Deployer 9.6 をインストールした場合、古い Deployer で使用していたポートを Deployer 9.6 でも使用する必要がある場合があります。同じポートを使用する場合は、以下の手順に従います。
  - a Integration Server Administrator で古い Deployer をホストする Integration Server をポイントして、[セキュリティ] > [ポート] ページに移動します。
  - b [ポートの追加] > [webMethods/HTTP] > [サブミット] をクリックします。ポートの詳細を入力し、[有効] で [はい] をクリックし、パッケージ名の下にある [WmRoot] をクリックし、[変更内容の保存] をクリックします。
  - c [プライマリポートの変更] をクリックし、新しいポートをクリックして、[更新] をクリックします。
  - d 新しいポートの [アクセスモード] 列で、[編集] をクリックします。ポートの [アクセスモードの編集] ページで、[アクセスモードのデフォルトを許可に設定] をクリックします。警告のポップアップで [OK] をクリックします。メッセージ [ポートサービスアクセス設定のアクセスモードを正常に変更しました] が表示されます。
  - e 古いポートの [有効] 列の [はい] をクリックして、ポートを無効にします。

## Integration Server 移行ユーティリティを使用してすべての Deployer データを移行する

前の節で、Deployer 9.6 をホストする Integration Server をアップグレードして、そのデータを移行しました。Deployer データの移行前に、ホスト Integration Server を起動しないでください。起動すると、MIGRATION\_DONE というファイルが WmDeployer パッケージ内に作成され、Deployer データを移行できなくなります。ホスト Integration Server を起動した場合は、このファイルを削除します。

43 ページの「[Integration Server およびホストされている製品のアップグレードの完了](#)」の手順に従って、Deployer データを移行します。

## Deployer 移行機能を使用して選択された Deployer データを移行する

### 古い Deployer と Deployer 9.6 を起動してグローバル ( デフォルト ) 設定を移行する

- 1 古い Deployer と Deployer 9.6 を起動します。
- 2 Deployer で、[ ツール ] > [ データの移行 ] ページに移動します。[Host] および [Port] フィールドに、移行元の古い Deployer を指定します。[User] および [Password] フィールドに、古い Deployer へのログオンに使用するユーザ名とパスワードを指定します。
- 3 Deployer 9.6 では、移行するエイリアス、ターゲットグループまたはプロジェクトが右側のペインにリストされます。[Page Size] リストで、一度にリストするエイリアスまたはプロジェクトの数をクリックします。
- 4 Deployer で、すべてのプロジェクトのデフォルト ( 依存性検査、プロジェクトのロック、展開の全般設定などのデフォルト ) を設定します。また、Integration Server および Trading Networks プロジェクトのデフォルト ( 展開時のアセットの一時停止、既存アセットの上書き、展開後のアセットの有効化などのデフォルト ) も設定します。これらのデフォルト設定を移行する場合、Deployer 9.6 で [ デフォルト設定の移行 ] をクリックします。

### 接続情報 ( サーバエイリアス ) の移行


移行するエイリアスを選択できます。ただし、ターゲットグループを移行する場合、ターゲットグループ内のエイリアスをすべて移行するか、ターゲットグループから移行しないエイリアスを削除する必要があります。

- 1 Deployer 9.6 で、[サーバエイリアスの移行] をクリックします。[Select Server] リストで、エイリアスを移行するサーバのタイプをクリックします。
- 2 [選択] 列で、移行するサーバエイリアスの横にあるチェックボックスをオンにします。[ 選択したエイリアスをサーバにポイントする ] リストで、[9.6] をクリックします。
- 3 [Migrate Server Aliases] をクリックします。Deployer によって、選択したエイリアスが移行されると、これらの行は無効になり、エイリアスの [Migrate] 列には [Yes] が表示されます。
- 4 エイリアスを移行するサーバのタイプごとに、上記の手順を繰り返します。
- 5 Deployer から Integration Server HTTPS サーバエイリアスを移行することはできません。ホスト Integration Server でこれらのエイリアスを手動で再作成します。

### ターゲットグループの移行

- 1 移行するターゲットグループで一部のエイリアスを移行しなかった場合、古い Deployer でこれらのエイリアスをターゲットグループから削除します。

**重要：** ターゲットグループに無効なエイリアスが含まれている場合、これらのターゲットグループを使用するプロジェクトの展開は失敗します。

- 2 Deployer 9.6 で、[ターゲットグループの移行] をクリックします。[Select Server] リストで、移行するターゲットグループを持つサーバのタイプをクリックします。
- 3 [Simulate Migration] 列で、移行するターゲットグループの各行の  をクリックします。  
Deployer には、ターゲットグループが参照するエイリアスが移行されたかどうかを示すメッセージが表示されます。一部のエイリアスを移行しなかった場合、これらを移行するか、指定されたターゲットグループからこれらを削除します。
- 4 [Select] 列で、移行するターゲットグループの横にあるチェックボックスをオンにします。[選択したエイリアスをグループにポイントする] リストで、[9.6] をクリックします。
- 5 [Migrate Target Groups] をクリックします。Deployer によって、選択したターゲットグループが移行されると、これらの行は無効になり、グループの [Migrate] 列には [Yes] が表示されます。


### 展開プロジェクトの移行

- 1 Deployer プロジェクトで参照されるすべての 9.6 ソース製品サーバを起動します。

---

**メモ：** Deployer プロジェクトで参照されるサーバを実行していない場合、またはプロジェクトで参照されるサーバの接続設定が正しくない場合、プロジェクトを後で再構築する必要があります。Deployer にはこの結果に関するメッセージが表示されます。

---

- 2 Deployer 9.6 で、[プロジェクトの移行] をクリックします。
- 3 右側のペインにある [Simulate Migration] 列で、移行する各プロジェクトの  行をクリックします。  
Deployer には、プロジェクトが参照するソースサーバが実行中であるかどうかを示すメッセージが表示されます。参照されるソースサーバを実行していないとメッセージで通知された場合、これらのサーバを起動します。
- 4 [Select] 列で、移行するプロジェクトの横にあるチェックボックスをオンにし、[Migrate Projects] をクリックします。Deployer の新しいウィンドウが開かれ、移行の状況が動的に通知されます。元のウィンドウの [Report] 列では、プロジェクトごとに移行レポートを表示できます。最新の移行状態は、[View Latest Migration Report] をクリックして表示できます。

# 15 全製品の最終タスクの完了、およびトラブルシューティング

---

- 全製品の最終的な変更の完了 80
- トラブルシューティング 80

## 全製品の最終的な変更の完了

- 各リリースでは、製品の動作、サービス、パラメータ、プロパティおよび API に変更が加えられています。これらの変更を反映するために、製品ファイルまたはアセットの変更が必要になることがあります。変更の詳細については、お使いの古いリリースから 9.6 リリースまでの各リリースの製品の Readme を参照してください。たとえば、リリース 8.2 からアップグレードする場合は、リリース 8.2、9.0、9.5、および 9.6 の製品の Readme を参照してください。また、新機能については、各リリースの製品のリリースノート参照してください。Readme およびリリースノートは、Software AG マニュアルの Web サイトから入手できます。
- 古い製品とは別のマシンに 9.6 製品をインストールした場合は、このマニュアルおよび製品マニュアルの説明に従って、9.6 製品、製品間の接続、データベーステーブルでホスト名を更新してください。また 9.6 設定ファイルの絶対パスが有効な場所をポイントしていることを確認するか、これらを新しいマシンに合わせて正しい値に変更してください。マシンに異なるオペレーティングシステムまたはハードウェアがある場合、JVM 設定が正しいことを確認してください。
- インストールした 9.6 製品に最新の修正を適用するには、9.6 製品とともにインストールした Software AG Update Manager を使用します。手順については、『Using the Software AG Update Manager』を参照してください。
- 9.6 製品マニュアルの記載に従って製品を設定します。
- インストールしたら、必要に応じて新旧の両製品を自動的に起動しないように、製品の Windows サービスを [手動] に設定するか、UNIX デーモンを起動するスクリプトを無効にします。新しい環境が整ったら、古い製品を停止した後に、新しい製品の運用の開始時に、Windows サービスを [自動] に再設定するか、UNIX スクリプトを再び有効にすることができます。

## トラブルシューティング

アップグレード時にエラーが発生した場合、以下のトラブルシューティング方法を試してください。

- ログファイルを確認します。

ログのタイプ	[場所]
インストールとアンインストール	9.6_Software AG_directory\install\logs ディレクトリ
製品	製品ファイル構造内の logs ディレクトリ、または 9.6_Software AG_directory\profiles\product\logs ディレクトリ
データの移行	9.6_Software AG_directory\install\logs ディレクトリ、およびアップグレード手順で示された製品ディレクトリ
データベースの移行	9.6_Software AG_directory\common\db\logs ディレクトリ

- Empower 製品のサポート Web サイトで [Knowledge Center](#) に移動し、「アップグレード」など、キーワードを使用して検索します。
- webMethods Error Message Reference でエラーメッセージを参照します。
- [Software AG 開発者コミュニティ](#) に移動して、アップグレードディスカッションフォーラムに参加します。

上記の方法で問題を解決できない場合、サポート窓口までご連絡ください。